

雄峯

第52号



TOKYO FUJI UNIVERSITY
東京富士大学校友会

建学の趣旨

国家の前途と人類の将来は青年の優劣によつて決せられる。青年学徒はその使命の重大なるを痛感して常に至誠立つ指導者たるの修練に努めねばならぬ。

我学園は「人道による世界平和」の理想の下に時代を拓かんとする人材を養成せんとするものである。而してその構想は

一、大愛の涵養に努むること

即ち万物育成の大自然愛を養ひ諸民族の解放と和親を図り万邦の協和に貢献すること

一、正義の顕揚を図ること

即ち各々生存の自由と人格の尊厳を重んじ進んで自らの義務を完遂して億兆協力の実を挙げることに

一、文化の向上に資すること

即ち常に人類の幸福を念とし各々その能力を最大限に發揮して更に万象の特性を活かして天地の繁栄を図ること

以上は我学園の設立の趣旨にして我等の日夜遵守すべき原則である。而して我学園の理想たるこの「人道世界の建設」は我民族の理想に一致し、更に人類の理想に合致するものと思惟せらる。もとよりその実現は人間性の一変せざる限り永遠の努力を必要とするものではあるが、この事は人間社会の無限の発展を意味し又我学園の理想の高遠なる所以を示すものである。

我々は困難ではあるが光榮あるこの大道を全人類と共に進み斯くして人類に光明を与へ常に希望ある世紀を拓き以て負荷の大任を全ふせんことを誓ふものである。以上

昭和二十二年四月

東京富士大学校歌

高田勇道／作詞・作曲

一、春爛漫の夢さめて

匂える花の移ろえは

世は盛衰を嘆けども

至誠の矜厳かに

文化の流れ拓かんと

破壊の嵐吹きささぶ

曠野を進む若人の

燃ゆる眸に希望あり

二、興亡くらき人類の

歴史の波瀾たけれども

見よ東雲の黎明に

世紀の鐘の音高く

挙りて謳う大き世を

三、ああ海原の空広く

精神は清き民族の

明日の道にそなえんと

この学舎に集いして

久遠にかおる建設の

理想を高く仰ぎつつ

すぐりて結ぶ若人の

固き誓いに光あり

雄峯 第52号 CONTENTS

● あいさつ

雄峯第五十二号発行に寄せて — 名誉会長 二上貞夫 3

会長就任に当たつて — 理事長 本間玲次 4

● 特集Ⅱ 東京富士大学創立70周年記念

総会講演会報告にかえて — 高田勇道先生と内ヶ崎作三郎師の大学・学生像について — 藤井 直 6

● 研究会報告

「20世紀初頭日英同盟下の日本の英国での評判と国際的地位についての感触」 — 内ヶ崎作三郎の日英博覧会観覧記などより — 講師 白山英子 10

● 会員近況報告

1971年4月～1973年3月 — この時代の富士短期大学簿記部 — 新潟市 武石春雄 11

● 投稿

創立70周年に本学の高等普通教育の原点を再確認する — 名誉教授 早坂忠博 12

● 東京富士大学に学ぶ

学生時代の「出会い」は一生の宝 — 幸家俊輔 16

● 東京富士大学大学院に学ぶ

私の大学院生活 — 陳 碧珍 17

東京富士大学大学院での修了にあたって — 陳 英 18

● TOPICS

支部活動報告 福島県支部最近の活動について — 三浦政一 20

支部訪問記 福島県支部を訪問して — 八城一夫 20

支会報告 雄峯マネジメント研究会 — 森川 昇 21

支会報告 少林寺拳法部雄峯支会 — 本間玲次 21

● 新役員就任挨拶

「叙勲の榮に浴して」 — 木村光雄 22

● 「文芸」：「春 雷」 — 関 實 / 「賀状書く」 — 大原芳村 24

平成25年度学園行事 — 24

平成25年度校友会事業計画 / 平成25年度校友会行事録 — 25

平成24年度校友会決算報告書 / 平成25年度校友会収支予算書 — 27

東京富士大学校友会会則 — 28

平成25年度校友会事務組織分担表 — 29

● 編集後記

30

雄峯第五十二号発行に寄せて

随 想

韓国の識者が好む言葉に「雲声」という文字があります。私がこの言葉を知ったのは、今は故人となられた日本の有名政治家の事務所を訪ねた時ですが、この二文字が堂々と書かれている全紙サイズの条幅が掛けてありました。雲＝大衆のことだそうです。

大衆の意見を大切にということでしょう。人の意見は実に多種多様であつても、大方の主意は汲みとれるものです。自分の信念で判断し、確りと対処すべきです。皆さん夫々の人生を「納得」で過ごすようにつとめましょう。

平成二十六年冬、晴日

東京富士大学校友会名誉会長
学校法人東京富士大学理事長

二上 貞夫

会長就任に当たって

東京富士大学校友会会長 本間 羚次



今年度、校友会会長に就任いたしました。昭和41年3月富士短期大学経済科二部を卒業しました。在籍時に出会った少林寺拳法を通じ、今日まで少林寺拳法部雄峯会の活動の中、校友会活動にも参加させていただいてまいりました。

この度、会長に選任され、今後どのような校友会にしていっていか考えてまいりましたが、まずは校友会活動の原点であります「目的」を理解することにあります。校友会「会則第3条（目的）」に、「本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする」と明記されています。この目的を達成するために、何をすべきか。

まずは多くの会員の皆様と相互に連絡が取れることが第一であり、また集まれる場として、総会をはじめ各種研究会及び親睦会等に参加していただくことが必要となります。そのために、会報の作成及び配布と続き、諸々の活動があるのです。これらの活動に対し、多くの会員が協力して、先輩は自分の体験を語り、後輩は必要なことを吸収し、少しでも質の向上が図れるのなら、これに越したことはないと思われまふ。そしてお互いに信頼できる関係が築かれること

が大切だと思えます。それらがあつてはじめて、「母校の発展に寄与できる校友会」がつくれるのではないのでしょうか。

会員の皆様が東京富士大学の卒業生であると胸を張って、仕事仲間や高等学校・小中学校の同級生に話しをし、一人でも多くの新入生の紹介や、卒業生の就職相談にのれる校友会をと考えております。まだまだ年月が必要と思われまふが、一歩一歩進むことができればと思えますので、今後のご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

つぎに卒業生の皆様に一言申し上げます。大学院修士課程を修了の皆様、経営学部ならびに短期大学部を卒業の皆様、おめでとうございます。

今後、就職される人、上位の学業に進まれる人、進路は様々かと思えますが、新たな一歩を踏み出すにあたり忘れてはならないことがあります。今日まで皆様を育ててくれた保護者をはじめ、教え導いてくれた先生方や時に生活の相談にのってくれた職員の方など、今までたくさんの人たちの支えがあつて今日この場にあると

いうことです。感謝の気持ちを胸におさめておいてください。

そして、とくに実社会に出て仕事をしていく上で心掛けていただきたいのは、まず自身をしっかり見つめ、自己を確立して、人として恥じない自分をつくれば、仕事は必ず身につき、社会に貢献できるということです。

いまひとつ思いついた言葉で『論語』の中に、「子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを樂しむ者に如かず」という項があります。これを要約すると「物事について知識があっても、それを好きな人には及ばない。もつと言うなら、そのことが好きであっても、それを樂しんでいる人には及ばない」という意味です。皆様は学業で学んだ知識に加え、これから新たにたくさんの知識を得ることになります。知識の習得だけで終わったのでは、本当の意味で自分の身にはなりません。今やっていることがつまらない、好きでないと感じることもあったら、観点を変え、まずは好きになることです。そしてそれが楽しくなるくらい追求していくと、本当に自分のものになり、終生他の人に遅れをとらない生き方ができると思います。

最後になりますが、本年新入会員となる皆様にも、再度「校友会活動の目的と事業」についてご理解くださいますよう、校友会会則を記載します。これに向かって皆様のご協力をお願いします。

い申し上げます。

第3条（目的）

本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。

第4条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 各種研究会及び親睦会の開催
2. 会報の作成及び配布等

校友会の仲間として、校友会活動に是非参加してください。卒業されても母校を忘れることなく、いつまでも学校に顔を出してください。そして校友会の先輩と顔を合わせ、何か自分のりのヒントを得てください。

今年の校友会総会は平成26年6月21日（土）午後1時より、本学本館メディアホールにて講演会、総会が開催されます。総会終了後、西武新宿線にて西武新宿駅まで移動していただき、「新宿プリンスホテル」地下2階「アリタリア」に於いて懇親会を予定しております。学長をはじめ、皆様がお世話になった先生方もご参加ください。新会員は無料ですので、是非仲間を誘ってご参加ください。よろしくお願い申し上げます。

（昭和41年 経済科二部）

総会講演会報告にかえて

平成25年6月22日

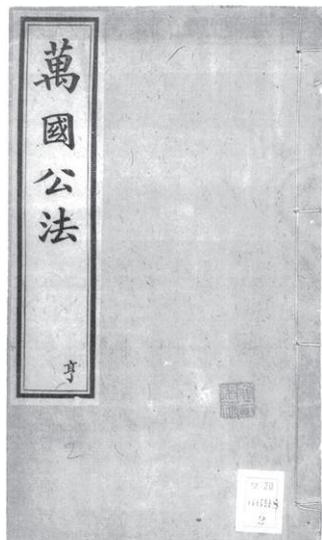
会場5号館531教室

高田勇道先生と内ヶ崎作三郎師の大学・学生像について

名誉教授
藤井 直

創立者高田勇道先生が学園に託された願いを想起し、その趣意をいま一度正しく理解しようとする試みとは私共校友として受けた学恩に報いるためのささやかな答礼の気持ちのあらわれであると自覚しています。

本学園には「人道による世界平和をめざして」という目標と、これを実現するための学問の指針として与えられている「大愛」「正義」「文化」という建学の趣旨があります。同時に高田先生の自戒の銘としての「教育とは学生に生命を与へてゆくことである」があります。これらの有機



早稲田大学図書館所蔵『万国公法』第2分冊の表紙

そのように思うわけは、内ヶ崎師と高田先生との間の一定の影響の授受、interactiveな良好な子弟関係を措定したうえでのことになります。このことは、これまでに、高田先生から直接教えを受けられた先輩

の方々を描かれた教篇の高田勇道先生像からしても、そのように想定することは許されると思います。

問題は内ヶ崎師がどのような高等教育像を抱いておられたかを、どのくらい明らかにできるかということにあると思っています。

内ヶ崎作三郎師は1877〔明治10〕年に宮城県に生まれ、仙台の第二高等学校〔旧制〕を経て、東京帝國大学文科大学英文科を1901〔明治34〕年に卒業後、翌1902年に早稲田大学に教員として奉職された。〔以下資料的部分は『早稲田大学百年史第一巻』第四巻〕に基づいています。担当科目は「英語訳読」〔大学部、専門部、高等予科〕でした。

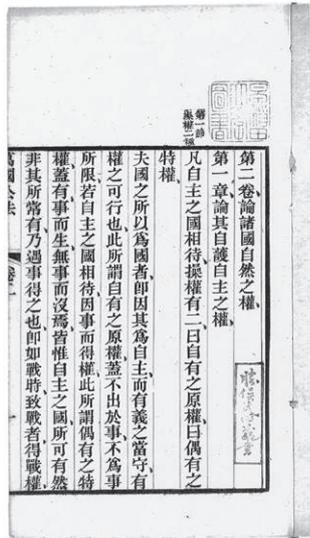
6年後の1908〔明治41〕年に英国オックスフォード大学マンチェスター学院に留学されて、1911〔明治44〕年に帰国され、教授として、『英文学論講（十七世紀）（2）』『英文学講読及研究（十九世紀）（2）』『英

語講読（2）』（大学部、高等師範部）「倫理学（1）」（高等予科）などを担当されました。

1917〔大正6〕年の「早稲田騒動」の後は、終身維持員の渋沢栄一や、森村市左衛門らの他に、有期維持員として平沼淑郎らと共に内ヶ崎師も選ばれて、それぞれ理事となり、平沼は庶務会計、内ヶ崎師は教務担当となりました。

1918〔大正7〕年11月には内ヶ崎師は編集及講演部長となっている（『早稲田大学百年史第三巻』490頁）。早稲田大学では東京専門学校の頃から、校外講義・特別講義や講演会という方法で高等教育の内容に触れることのできる機会を、自校の他学部他学科の学生だけでなく、広く学外にも開放して、早稲田の特色というか、名物として社会に受け容れられ有名でした。

その校外講義などの実態を少し資料的にみておきます。1910〔明治43〕年9月から1919〔大



前掲『萬國公法』第二卷第一章
第一節冒頭部分

正元)年までについて任意に抜き出してみます。中国人康有為「欧米漫遊談」(1911〔明治44〕年9・19)。ロンドン大学理事長・教授シドニー・ウェップ「国民生活の最低限度」(同年10・5)、衆議院議員島田三郎「二十世紀劈頭の問題」(1912〔明治45〕年3・8)、男爵阪谷芳郎「支那財政の将来に就いて」(同年3・23)などがありました。

文学士内ヶ崎作三郎「東西文明の長短」、伯爵大隈重信「世界の平和に就いて」、法学博士高田早苗「時代の要求する教育」という題で、同じく3氏が講演しました。

1912〔明治45〕年10月の「早稲田大学創立30周年記念祝典、校外教育大講演会」では、10月19日に築地本願寺会場で煙山専太郎教授が「国の盛衰興亡」という題で、両国回向院会場で平沼淑郎教授が「世界史上日本の地位」、内ヶ崎作三郎教授が「大国民の資格」という題で講演しています。他にも、浅草本願寺会場を含めて同日の各会場とも、各5名づつの講師でした。10月21日の神田青年会館で安部磯雄教授「独占事業論」、高田早苗教授「学制改革と大学教育」他、本郷中央会館で坂本三郎教授「法律上より見たる女」、永井柳太郎教授「戦争の意味」他、あと芝の三田惟一会館の5名を含めて2日間6会場講師30名でした。

引用部分が長くなっています。これは、内ヶ崎師と高田先生が共有されていたと言っようと思われる早稲田文化の特質の一端を確認しておこうということと、こ

のようなかたちでの早稲田大学の高等教育の社会への拡大の状況そのものが1943〔昭和18〕年に、長期の講習会とも呼ばれましたけれども、高等教育制度の一環として東亜学院を決定として高田先生が始めるにいたったことの要因としてそのreadinessの意味は大きいのではないかと思えます。

なぜ1943〔昭和18〕年でありえたかの問題は、高等教育理念の問題ともあわせて納得できる説明にならないかもしれません。高田先生が早稲田大学専門部に入学されたのは1930〔昭和5〕年でありましたが、もう少し内ヶ崎師の周辺に視点を据えて引き続き科外講義と講演会のテーマと講師をみておくことにします。

1914〔大正3〕年3月28日には、福田徳三「17・8世紀に於ける欧州経済学と日本の経済」、同年5月16日には、横浜正金銀行頭取井上準之助「外国貿易と国際間の貸借関係」。1918〔大正7〕年12月3日は法学博士吉野作造「国際聯盟論」、同年12月9日にドクター・オブ・フィロソフィー帆足理二郎「米国家社会に於ける大学の位置」などがあり、1918〔大正7〕年の中央

夏期講習会では、早稲田大学講師、ドクター・オブ・フィロソフィー高橋清吾「デモクラシー批判」、日本銀行総裁井上準之助「戦後世界の金融」、早稲田大学教授・文学士内ヶ崎作三郎「最近世界史上の中心人物」などの講演が行なわれました。

同じ大正7年の地方講習会では岩手県紫波郡教育会主催(8月1・5日)では早稲田大学教授・文学士煙山専太郎「世界戦争の概況」、沖縄県国頭郡教育会主催(8月1・5日)では早稲田大学教授・文学士内ヶ崎作三郎「創造的教育論」、静岡県安倍郡教育会主催(8月14・18日)本大学教授・文学士内ヶ崎作三郎「創造的教育論」などがありました。

なお同年10月19日から23日まで5日間かけて5会場でおこなわれた「早稲田大学創立50周年記念学術大講演会」の大隈講堂の部の講師5名中2番手であった勝俣銓吉郎教授の演題は「智識の創造」でした。21日の朝日講堂会場の2番手、島田孝一教授の演題は「本邦陸運の経営と其改善策」、横浜記念会館の2番手阿部賢一教授の演題は「インフレーション財政の行方」、3番手北沢新次郎教授の演題は「更生日本の経済原則」でした。

1920〔大正9〕年の科外講義の中には同志社大学総長海老名正「国際聯盟に就いて」、海老名夫人「欧米の婦人に就いて」（いずれも大正9年2月24日）がありました。前年1919〔大正8〕年の3月8・15日の特別講義にはコロンビア大学教授ジョン・デューイ「デモクラシーの哲学的基礎」がありました。

「早稲田大学創立50年記念恩賜記念賞」論文授賞者に、政治経済学部政治学科第3学年佐藤立夫「法

と道徳」〔10年度〕があり、「恩賜記念賞」に次ぐ「教職員賞」論文授賞者に、専門部政治経済科第3学年宮出秀雄〔9年度〕がありました。

1918〔大正7〕年11月以来、講演部部长であった内ヶ崎師は、大正13年に衆議院議員に当選して、昭和4年10月には内務参与官に任ぜられたので、教授を辞して講師になるとともに、講演部部长を喜多社一郎と交代しました。在任中は「内ヶ崎時代の科外講義」と『早稲田大学百年史』で記述されるほど

「その顔の広さを十分に利用して、各界の泰斗を学苑に招き、科外講義の魅力を一層大きくした」（前掲書『第三巻』491頁）と評価されています。

内ヶ崎師がかつて1908～1911年の間の英国留学に於いて、「人情に東西なきを實〔際〕経験した」として、「彼我を知り、我彼を知らば、多くの紛糾せる問題は自ら解決するであらう」と述べる際に、内ヶ崎師は自らの人道主義的立場の正しさを

例証するものを、恩師フカデイオ・ハアンと新渡戸稲造博士の行動と言説に見ていると思われのです。

1928〔昭和3〕年1月以降、頻繁に科外講義に登場している。昭和6年2月までに26回、ただし数え方によってはもっと多くなる。新渡戸博士のテーマを抜き出してみると、「西洋の事情と思想」「東西王道の比較」「国際連盟に活動する人々」「新自由主義」「大学教育の使命」「大衆教育と職業問題」「英語及英文学の価値」などとなります。

軍事的実力の優位性確保に国力を傾ける不可逆性が顕著になりつつある時期（1933年10月）での新渡戸博士の米国での客死は、新渡戸博士自身が軍国主義へのアンチテーゼのひとつとして人道主義的行動を体現していたかのように見られていたと思える限りで、国民的期待のある部分の過剰な荷重からの解放であったかも知れません。内ヶ崎師の落胆もさぞやと思われませんが、内ヶ崎師がイギリス留学時に普遍的人間像の体現者に新渡戸博士を擬すること、自身の人道主義的世界観を一層確かなものにしたことは疑いのないことと思われれます。けれども、国家間の付き合い方を、軍事力決定論から取り戻し、永遠の真

理への回帰の方向修正に資するためには、何よりもまず有為な人材の育成、わけても高等教育にその眼目があるといふ課題性は、一個の偉人の死によって変化を受ける類のものではもとよりないのであります。

1933〔昭和8〕年に専門部を卒業されて高田先生は、研究科へ進まれ、翌年に研究課題として与えられたF.W. Maitland の “The Constitutional History of England.” 1908の訳読がまだ終わらないうちに、最初の指導教授であった高橋清吾師が1939〔昭和14〕年に亡くなられ、内ヶ崎師に指導を變更され、自身の進路についての選択肢を研究職、政治家、教育者と広げられたことと、時代の動きとは、関係なくはなくて、むしろ緊張をはらんだものではなかったかと思われれます。

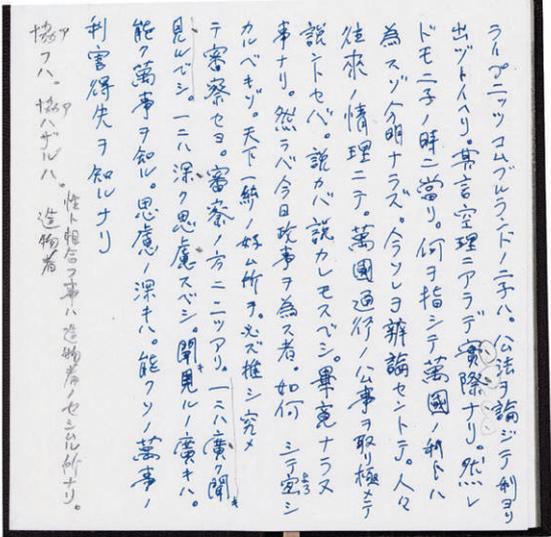
ここで時代状況というのは、国際関係の諸懸案の解決を専ら、軍事的優位性の構築によって打開しようとする傾向が支配的になってくる状況をいっているのです。これは日本について言えば、1865〔慶応元〕年に始まる『萬國公法』的世界の流れのひとつの帰結であるのであって、国家間交渉での対等性の、その背景となる軍事力に偏った期待をするということでありませ



法政大学現代法研究所蔵『萬國公法』第一卷第一章第四節の一部分

この偏りを規整する役割を果たすことのできる考え方として人道主義はあるのであり、それこそ内ヶ崎師が、英国留学以来度々強調してきたことであつて、また新渡戸博士が身をもつて示してきたことではなかつたかと思ひます。人道主義が、Geertzを規整しえてバランスのとれた状態というのが「人道による世界平和」の状況といえるのであると思ひます。

ところで『萬國公法』についてですが、これはアメリカ人で駐プロイセン公使などを務めたヘンリー・ホイートン Henry Wheaton (1785-1848) が1836年に著わした『Elements of International



明治大学中央図書館所蔵『萬國公法』第一卷第一章第四節日本語訳書写の一部

Law』を、在北京のアメリカ宣教師ウイリアム・マーティン William Martin (中国名丁韞良) (1827-1916) が、1863年に漢訳して、清朝総理各国通商事務衙門〔総理衙門〕に提出し、必要な漢文訂正と出版の計らいを請うたところ、恭親王が三百部の上納を条件に五百両で引き受けて、進士4名に命じて漢文修正を加えて1864年に出版されました。同年に長崎に入ってきたものを幕府の開成所が許可して、江戸と京・大阪の版元がその漢文訳版を競つて繙刻出版したので有名な書籍であります。

1853・54年のペリー提督はもちろん、続いて来日し、日米修好通商条約交渉を担当した公使、領事から盛んに口を吐いて出てきたのが、「万国公法に依れば」

「それは万国公法の許していないところである」という言葉であつたということです。幕府の担当者をはじめ蘭学者のみならず漢学素養の開明的な若者の間でも書写を含めて爆発的な関心がもたれたというのが事実でありました。

幕府と明治新政府の連続性というものをはるかに越えて絶妙のタイミングで対外的姿勢に向けての備えが瞬発力をもった体勢として用意されることになつたといえます。

『萬國公法』は「国際法」として平時、戦時の国民国家間の交渉の作法、慣習等を具体的に規定、解説していますが、とくに総論のところは、W・マーティン〔丁韞良〕漢訳を清国官僚が訂正訳するところで儒教的伝統に基づいた天道・天命概念に媒介されざるをえないことで、すでに中国文化に馴染んでいる日本の知識人にとつて極めて分り易いものになつたといわれています。

清朝の漢訳はH.Wheatonの原典個所を参照すると、随分補つているのが見えますが、深みを増しているように思ひます。たとえば、漢訳〔法政大学現代法研究所所蔵『萬國公法』巻一の三、第四節公法性法猶有所別〕と、日本語訳〔明治大学中央図書館所蔵毛利家旧蔵の当該個所〕を見ますといずれも、必ずしも逐語訳ではありませんが、却つて分かり易く格調高いものになつていふように思ひます。早稲田大学図書館には『萬國公法』〔丁韞良〕が8セット所蔵されていますが、内2セットは「勝俣氏旧蔵」の印が押してあります。

もちろん和装本ですが、四分冊本と六分冊本がありまして、後者のとくに巻一、巻三、巻四には勝俣先生の朱筆が行間に欄外にびっしり入つている頁が数多くあります。さらに漢訳の「歸實際」のところで「天下之公好、必也究察、究察之方有二、一則見廣、一則慮深、見廣則知事慮深則知其事之有利有害焉」のところに傍線が朱で打つてあります。

まさに「廣ク見ルコト、深ク慮ル」ことによつて学生は該時に生きるための命を得ることになるのだと思ひます。「深く思慮スル」ことができるとまでの学生にせひなるように、そのためには、世界を広く見るために必要な中国語、英語、仏語、独語、韓国語などは実際にそれを使つて究察することができるとまでを学生自身してくだささい。そのことを学生自身も深く心に留めて到達水準を設定してください。教職員の方も家族の方もどうぞよろしく願ひします。というように自戒を含めて、高田勇道先生がいわれたと汲み取ることにもゆるされるのが「教育とは学生に生命を与へてゆくことである」に託されている決意と思ひなのではないか、いま一度静かに噛み締めてみたいと思ひます。

(昭和42年 経済科)

「20世紀初頭日英同盟下の日本の英国での評判と国際的地位についての感触」

— 内ヶ崎作三郎の日英博覧会観覧記などより —

講師 東京大学大学院教育学研究科博士課程 白山英子氏

東京富士祭研究会において、表題の講演テーマにつき、内ヶ崎作三郎氏を中心に高田勇道先生、勝俣銓吉先生との関わり、および人的ネットワークも含めて拝聴した概要は次の通りです。

本学の高田先生と内ヶ崎氏の出会い、高田先生が昭和14年に早稲田大学研究科で英国憲法史の翻訳作業の途中に指導教授が急逝され、当時早稲田大学講師であった内ヶ崎氏のもとで翻訳を継続することとなったことです。

そして昭和18年、高田先生によって創立された東亜学院は、学校としては認可がなく、法的には二年間の長期講習所であり、各種学校として認可申請が必要でしたが、その際に衆議院副議長の内ヶ崎氏の口添えを得て事後申請が可能となり、翌年の昭和19年に認可されました。

昭和26年には学校法人富士短期大学の設置が認可され、高田先生は初代理事長に就任し、勝俣銓吉教授が初



代学長に就任されました。

内ヶ崎作三郎氏は明治10年4月8日、宮城県黒川郡富谷町の造り酒屋に生まれました。仙台の第二高等学校在学中に、宮城県の大正デモクラシー三羽鳥と呼ばれた同郷の吉野作造氏、小山東助氏と共に仙台市内のパプテスト教会で受洗しました。

東京帝国大学英文科卒業後、明治35年早稲田大学に奉職し、明治41年から44年まで英国のオックスフォード大学マンチェスター学院へ留学。宗教学、社会学、英文学を研究し、欧米諸国をめぐり明治44年8月に帰国し、9月に早稲田大学教授に就任しました。一方で東京ユニテリアン教会の牧師となり自由キリスト教の宣伝活動をしていました。

その後、大正13年、第15回衆議院議員総選挙宮城4区で吉野氏の応援もあり初当選。憲政会、立憲民政党に所属し当選7回、昭和16年から20年まで衆議院副議長を経験しました。

戦前は日本国際連盟協合理事を務め、戦後は日本進歩党に所属して、吉野氏とは生涯を通して親交を結び、昭和22年2月に69歳の生涯を閉じました。

内ヶ崎氏の留学中の見聞記『英国から祖国へ』によれば、オックスフォード大学とケンブリッジ大学のポートルースを観戦して、英国の学生や国民のスポーツ熱の高さを評価するとともに、両大学の学生の体格がとて

も優れているということに気づき、日本人の体格向上には食事から改善（充実）と体力の増強の必要を感じたそうです。そして、肉食主義の肉体的な優位性に注目し、日本人が西洋人と競争するにはこれまでの菜食主体では競争に耐えられない。食事における折衷主義が必要だと指摘しました。

婦人問題（女子教育）について、知見が高く独立心も強い、かつ積極的に社会参加する英国婦人に対し、日本婦人の受動的・消極的な良妻賢母は哀れむべきことと批判し、知育水準の低さも話に成らないほど低く、婦人の教育の必要性と台所の改良による家事からの婦人解放が急務であるとしています。

また、明治42年10月26日、伊藤博文の暗殺報道の新聞を見てショックを受け、今後は韓国問題が益々重要となるだろうと心を痛めていました。留学中の明治43年（1910年）

には近代日本と台湾、朝鮮、満州を紹介した最大級のイベント日英博覧会が開催されました。

この博覧会は、日露戦争後の黄禍論や反日感情を和らげ、英国と対等の近代国家日本を宣伝し日本製品の対英輸出拡大を図る好機ととらえていましたが、英国側からの出品は少なく「英国における日本展」となりました。

勝俣銓吉郎（本名は銓吉）先生は明治5年11月18日、神奈川県足柄下郡に生まれ、横浜郵便局に勤務しながら横浜英和学校で英語を学びました。

明治30年「The Times」社に創立と同時に入社、「私の本当の母校は、ジャパン・タイムス社ですよ」という語録があります。

明治39年早稲田大学講師、明治44年早稲田大学教授に昇進。昭和18年に早稲田大学を定年退職後、大世学院に勤務し富士短期大学初代学長となりました。

勝俣先生は、英語学の研究と数々の英語辞典の刊行など、皆様ご存知の業績を残されました。さらに勝俣先生を取り巻く人脈として、ジャパン・タイムス社で出合いがあった頭本元貞氏、武信由太郎氏他のお話もありました。この研究会により、明治時代の日本の西洋化の流れと、本学の学園史の理解がさらに深まりました。

（昭和49年 経済学科二部）
（平成16年 経営学部夜間主）
八城一夫

1971年4月～1973年3月 この時代の富士短期大学簿記部

新潟市 武石春雄

ご無沙汰をしています。「雄峯」編集委員会の藤井直先生から原稿の話をいただき、同期の仲間に戻す予定で引き受けました。仲間に回す時間もなく、覚悟をして昔話？を書かせていただきました。

富士短期大学の税理士コースに在籍して昭和48年3月に卒業した簿記部の同期15名ほどが全国で税理士になり仕事をしています。

その当時の簿記部は活発でした。私が2年時（昭和48年2月）のガリ版刷りの名簿によると、部員数は1年男23名・女108名、2年男31名・女72名でした。

簿記部の組織は部長1名、副部長2名、指導委員会の中に勉強会（Aコース初心者から日商3級、Bコース日商2級、Cコース日商1級）と簿記大会、記録委員会、会計委員会、企画推進委員会の中に部会運営と交流運営、研修委員会、合宿委員



員会、親睦委員会がありました。新入会員の募集から始まり、5月

の研修会、6月の検定試験、8月の合宿、10月の簿記競技大会と体育祭への参加、11月の富士祭への参加と検定試験、年2回発行の文集「花籠」、2月の機関紙「礎」の発行と続き、大学の授業は二の次で簿記部にかかわっていました。今思うと楽しかったですね。簿記部の結束は固く、どの行事も委員会が責任をもって計画を立て実行していました。

研修会は友達を作る目的の新入会員との交流会。代々木青少年総合センターで3泊4日約150名を10数班に分けて行いました。勉強会は分館を借りてコース毎（さらに班に分けて）に先輩が毎日教えて検定試験に臨みました。初心者でも2級までは合格させられたと思います。班によっては合格率が低く、教えている先輩が自信を無くしている姿が見受けられました。

当時の簿記部はほんとによく、サークルでありながら日商検定合格を目指して勉強をしました。その中で年間の最大の遊びのイベントは合宿、6泊7日長野県松原湖に参加152名で行きました。勉強は一切せず、合宿委員会と親睦委員会が

湖周ラリー、ゲーム、キャンドルサービス、キャンプファイヤーなどの予定を立て全員と班単位による交流会などでした。

簿記大会は簿記部としては対外的なビッグイベントでした。大学から協力をいただきましたが簿記部主催で行うには大変でした。体育祭は楽しんで盛り上げようと簿記部単位での参加です。芸達者な部員の発案での仮装大会はハレンチ学園（女装をして）、いじわるばあさん（男が）、あしたのジョー、木枯し紋次郎などで、参加者が楽しみました。

昭和47年11月に簿記部創立10周年記念祝賀会をヒルトンホテルで開催し、先輩方と交流。11月に新部長と副部長の選挙があり、2年生は退陣でした。

火曜日は全部員起立の中で部長の私が校歌前詞を暗誦朗読してから全員で校歌を歌い、部会が始まりました。部会の終りには「簿記部の歌」を高らかに斉唱しました。

税理士を目指して全国から集まった部員のほとんどが、昼は授業と簿記部で、夜は専門学校に通いました。みんなで夜に新井薬師駅近くの集會場で、税法の勉強を行っていること、卒業した税理士科目取得の先輩たちが仕事を終えてから教えに来てくれました。その先輩たちが税理士試験の終わるたびにピアガーデンで慰労会を開いてくれて「結果待ちだからとりあえずカンパイ」と慰



めてくれました。税理士の資格が取れたのも、富士短期大学と簿記部に入ったからと感謝しております。

大学生活はわずか2年間でしたが、簿記部の活動に夢中でした。おかげで同期の団結力は強く、卒業後10年過ぎたころから、オリンピックの開催年毎に同期会（富簿会）を開催しております。毎回45名前後が参加し、昔話で盛り上がっています。顧問の藤井先生をはじめ大学には大変お世話になりました。ありがとうございました。

（昭和48年 経済学科）

創立70周年に本学の高等普通教育の原点を再確認する

名誉教授 早坂忠博

きんぎょくぶん
金玉粉さんと余侃君

校友会誌『雄峯』の第51号（平成25年3月刊）に、平成24年度学部新卒者2名の注目すべき文章が掲載されている（大学院卒業生2名の立派な手記も同時に掲載されているが、ここでは学部卒の2名の文章のみを問題にしたい）。「注目すべき」と表現したが、私は彼らの文章に感動し、彼らの文章が示唆する方向に本学教育の希望があるとさえ感じたのである。1500字で表現された彼らの文章に何が書いてあるか、一体何が詰まっているのか、私が感じ、考えたことを述べてみたいと思う。



金玉粉さんの文章は「私の宝物」と題されているが、最初に「…富士で学んだ数々のことは、私にとつて大切な宝物です…」とあって、そこから表題が取られていることが

分かる。彼女はていねいな言葉使いで文章を綴っているが、それは自らの経験を大事にするという誠実な生活態度と重なり合っていると考えられる。「…いろいろな事を乗り越え、そのひとつひとつの時や出会いを大切にしてきたお陰で、多くのことを学ぶことができました」。

そして、おそらく彼女の日本語表現は大学で学ぶことによって大きくレベルアップしたものと推測される。「…授業を受ける楽しさ、試験を受ける緊張感是我的の人生で貴重な時間でした」。

彼女の授業への取り組みの真剣さが読むものにストレートに伝わってくる感じがする。

彼女はTJ先生の「異文化コミュニケーション」で世界の見方に開眼し、起業家育成を目的とするTK先生のゼミで「ビジネスプランの作り方、経営管理の具体的な手法、さらには地域活性化の方策などを学習」し「三宅島の活性化」というコンペに参加して仲間と発表を行ったことを述べている。彼女の「この4年間

でたくさんの人と出会い、たくさん経験をしたからこそ今の自分がいる。…自信と誇りを失わず、一歩ずつ着実に明日へ向かって進んでいきたい」という述懐と決意には、充実した毎日の学生生活の積み重ねから生み出される自信と、そこから新しい未来へ踏み出していこうとする意欲が表れている。

しっかりと内容の詰まった学生生活、意欲的な学習内容の吸収、その体験を自分の言葉で適切に説明できる表現力、文章力…、私は一読して彼女の文章に魅せられ、その内容に心打たれた。こういう学生がいた、こういう卒業生がいたということに感動したのである。

彼女は卒業直前の3月11日に発生した東日本大震災についてこう記している。「（パニックに陥るが）その中に見えてくる日本のもう一つの文化に気付く（ことになる）。…混乱した状況下での秩序正しき、冷静さ、我慢強さ、譲り合いの心…、私は（自分が）日本で生活していることに誇らしさを覚えた」。ここに日

本人以上に日本人らしい若者がいる。私たちは、彼女から（逆に）日本人としてのあり方を教えられ、励ましを受けているのではないか、いや、しっかりと生きた方をせよと叱咤されているのではないか、そんな感じさえるのである。

「人の力が世界を変える」を書いた余侃君は、産業革命以降の近代社会の成立から20世紀の社会変化までをひと続きのものとして把握し、その理解に立って自分の未来を展望しようとする。

近代社会は「人、物、金、情報」などの経営資源を使って新たな価値を生み出してきたが、その中でも核になるのは人間の力である「ことを確認し、そこから自分の人間力を意識することになる。そして「勉強、体験、外部からの影響、刺激によって自分の中に形成されていく力」を自覚しこれを伸ばしていこうという姿勢が生まれ、それが生き方の方針となっていく。

その具体例として彼は自らの日本語習得について触れている。最初は

全く日本語が分からなかったが、努力して日本語能力試験1級、ビジネス日本語能力J2級に合格する。そして、「ここが大事なところだが、「その過程で日本の文化、慣習が身体に浸み込み、考え方も徐々に変わっていった」と述べている。彼は、ここで日本語習得が日本文化、日本人の生き方、ありかたの理解につながっていくものであることを証言していることになる。

異国の地に身を置き、異国の言葉の習得を進めながら、その国の文化を肌で理解し、人間としての生き方を広げ、人間として成長を果たしていく彼の成長過程がよく分かるような気がする。彼は、また「語学力を伸ばしながら）第三者の立場に立つて物事を考える力を得た」と確信し、「その力で日本、中国間に友好関係を築いていきたい」との抱負を述べている。：「両者の誤解を解き」、「日本の良さを伝えて：」と具体的な方法まで表明している。国際人の資格十分である。余君の締めくくりの言葉は次の如くである。「東京富士大学の一員である私は、皆さんと一緒に誇りをもって：世界に貢献していきたい」。

私は、余君の文章を読んで自分のポジションというか、自分の置かれた場所を大事にし、そこに誇りを感じ

じ、その地盤に立ち、そこから社会に貢献していくという「人間らしい生き方」の基本を教えられているような気がする。「東京富士大学の一員である私」「皆さんと一緒に」「誇りをもって」「世界に貢献する」という意識をもって「生きる」。私は、金さんの場合と同様、彼から大きな勇気を与えられ、励ましを受けていると感じる。

日本語教育の徹底

以上、金、余両君の文章を私なりに紹介してみた。私は、家人から「思いこみの強い人間」と評されていて、それは自分でも認めざるをえない。一点の強調によって全体の見方を失ってしまう恐れなしとしないところがある。また物事に安易に（安っぽく？）感動し、それがいつもオーバーに過ぎるとも言われる。金さん、余君の文章の受け取り方がオーバーだという批判も予想されるところであるが、しかし、人間に対する共感、感動なくして真の教育などありえないのではないだろうか…。まあ言い訳は措くとして、私は両君の手記の中に教育方法として大事なことが示されていると感じており、以下にそのことについて記述したい。

彼らの文章に共通して見出せる三つのポイントがある。彼らの学習生

活の成果として、①日本語の十分な習得、習熟の過程が示されていること、②経営学（本学教育課程の全体の学習）の勉強によって得られた知識がしっかりと自分のものになっていること、③、①②の学習を通して大卒者として恥ずかしくない人間形成、人格形成が果たされていること、この三点が明確に確認できるということである。

日本語習得については、両者にそれぞれ印象深い記述があり、そこに語学習得が留学の成功、不成功を決定するポイントだということが明らかにされているように思われる。さらに、両君が日本語習得だけでなく、教養科目そして専攻の経営学の学習に精一杯取り組んでいることも明確に読み取れるところである。金さんのゼミ活動はゼミ仲間との親しい交友関係を想像させるが、余君は授業で得た知識を自分に引きつけて捉え返し、社会の見取り図を自分で作成しようという方向へ向かっている。そこには彼の世界市民としての自覚が示されており、彼が自分の生き方を導く「本当の意味の教養」を身につけていった過程が示されているように思う。

両君には、共通して上記のような学びを可能にした真摯な生活態度があった。心構えがしっかりといて

たと言ってもよい。入学以前に日本語習得の年月があつて何年かの年長者として入学、すでに大人としての自覚を持っており、将来設計に関しては背水の陣を敷いて留学を決定しており、おのずから真剣に学習し、集中して事に当たる基本姿勢ができています。

そういう留学生共通の特色を差し引いても、両者の志の高さは特筆していいように思われる。とにかくその志が核となつて上記の①、②、③を総合したような成果が得られたのだと考えられる。

一般化すれば、留学生としてのハシラを抱えた者の中の「意識の高い学生」が予定通りの成果を収めたということになるのかもしれない。しかし、他ならぬ本学の教育システムがこれらの卒業生を生み出したということが紛れもない事実である。これを総合すれば、志を持った真摯な学生が、本学で真剣に勉強すれば、金さん、余君のようなすばらしい成果をあげることができるといえることである。

まず何よりも「本学のカリキュラムがこういった学生を教育する力をもっていること」を確認し、本学のその教育力を客観的に分析して、これを改めてシステム化し、金さん、余君のような学生をさらに多く意

識的、方法的に育てていくべきではないかと考える。そのための一つのポイントとして、私は留学生に「日本語教育の徹底」を図ることが効果的な教育方法になるのではないかと思う。日本語の理解度をもって本学の経営学を学ぶ資格にする（それが実質的入学条件になっている）と同時に、経営学（本学カリキュラムの全体）の学習を通して、日本語の真の習得を可能にするという二重性を意識した学習システムを開発できないものか。

留学生にとって留学先の言語習得が最重要事であることは言わずもがなのことであるが、それは単に話し言葉の習得を意味するものではないであろう。留学先の言語を「通して」学習する中で得られる知識の習得があつてはじめて、留学の実質的な意味が満たされることになる。そして、その学習によって得られた人間としてのまとまりは、異質なものを媒介にした自己確立という意味で、強固でしかも柔軟なものであるという期待が持てるであろう。私は、そういう背景をもって「真に日本語をものにし得た学生」なら母国と日本の関連の中に就職先が見つからないことはないのではないかと考えていた。

具体的に言えば、金さん、余君に

就職先が見つからないということはありえないと思つた。案の定、金さんは在学中に日本で就職を決定していたし、余君は卒業後中国に帰つて、日系企業に就職先を見つけたという。

外国語学習と専門教育

ところで外国語（日本語）習得を徹底した留学生がその延長で成し遂げたのと同様の教育成果を、日本人学生にももたらすことはできないものであろうか。勿論、日本人学生が英語、中国語等の外国語を通して金さん、余君と同様な集中した学習を行つて同様の成果をあげることが考えられる。再確認であるが、金さん、余君は単に日本語の会話をマスターするというだけで満足してしまつたわけではない。彼らは身につけた日本語で授業の理解に努めた、そして専門の知識を自分の教養としてもにすると集中した勉強をした、そしてそのことで日本語の理解が深まつたであろうことを重視したい。また外国語を通しての学習は、同じ理論理解でも、より客観性をもつ徹底した理解になる可能性があるのではないか…。

話を元に戻して私はここで留学生の「日本語理解・授業理解」を日本人学生の教育に方法として適用でき

ないだろうかと考えている。日本人学生の多くは母国語としての日本語の皮膚的、感覚的な話し言葉の世界に止まつてしまつており、客観的、論理的、理論的な日本語の世界を容易には受け入れられない。それゆえ、大学の授業に集中し、そこで提供される知識を真に自分のものにできないままに終つてしまう場合が多いのではないかと思う。この点に関わつて、留学生にとつての「日本語理解・授業理解」を「文章読解・文章作成」という形に置き換えて、すべての授業で文章を読ませ、文章理解を進めさせ、その理解を自分の言葉で表現するという訓練を徹底するという方法を採用することはできないだろうか。あるいはいくつかの授業でその方法を徹底するだけでも効果はあると考える。

アメリカへ留学した者からよく聞かされることは、文章を大量に読ませられたということである。次の週までに何十ページかの文章を読んで、その要約ないしはレポートを製作するという課題が毎週出される。その作業で徹夜をすることが当たり前になつていったという類いの話を聞いたら人は多いはずである。そういうオックス・ブリッジのチューター制による教育も同じパターンに入ると考えてよいのであろう。指導者と

の一对一の関係で徹底して文章を読みこんで理解し、それを表現するという単純作業（？）に終始するようである。どうもその点に大学教育の一つの真髄があるということのようにある。

金さん、余君は、自らの留学生としての生活条件においても、日本語理解の不十分さにおいても、おそろぐりぐりの状態から出発し、追い込まれるような形で授業に集中し、結果として「密度の濃い文章理解・文章表現の訓練」を行うということになった。ここから、「集中した形での文章理解・文章表現」を一つの方法として取り出す。それが外国語でなくても同様の成果を得ることが可能になると考える。実は、自発的にそういう勉強を行い、優秀な成績を収めて卒業していった学生は、過去にもたくさんいたはずである。そして現にそういう授業を行おうとしている教師もいると思われる。ただ、ここで金、余の両君が、留学生であるが故に、そのことを明確に見える形で示すことになつたということの意味は小さくない。留学生故に、このパターンが際立ったものとして明らかになつたことは一つの幸運である。これをモデルにして、この仕組みをなんとかして教育現場に反映しようという試みがあつてもよ

いのではないか。この方向で仕上げられた学生は物事を客観的、問題的に捉える力を持つてであろう。そして協力して事にあたるためのコミュニケーション力、社会人基礎力として大学教育に要求されているこれらの要件は、文章理解力・論理的思考力の養成、文章表現力の練磨を通して初めてしっかりとしたものになるものと思われる。

高田勇道先生の信念と先見性

『雄峯』第51号には「高田勇道先生の建学の思いを継ぐ」という創立70周年記念の座談会が掲載されている。そこで本学の前身「大世学院」が財団法人として認可された時の寄附行為に触れ、「本法人ハ、人道ニ依ル世界平和ノ理想ノ下ニ 知能ノ啓発及人格ノ陶冶ニ努メ、国家有為ノ人材ヲ養成スルヲ以テ目的トス」というその第一章目的及使命の第一条が紹介されている。これは本学教育の原点を示す文章であるが、本学の教育が当初から目指していたのは「知能の啓発と人格の陶冶」であったことが分かる。

もう一点、大世学院のカリキュラムでは語学が重視され支那語、タイ語、マレー語、英語が置かれ、ここから二科目を履修する必要があった

たことが紹介されている。外国語二科目の履修は当時の大学教育の基礎条件であり、高田先生は大学としては認められていない大世学院において大学の教育をやるうとしていたということになる。それは昭和18年の東亜学院設立からの高田先生の考え方であった。「外国語を習得し、広く知識を学び、それらの学習を通じて人格の形成を図る」ということで意識されているのは「高等普通教育」による人材の育成ということである。

高田先生は、大学卒といった資格のことで学生の突き上げを食って、資格などなくてもよいのだと言われたというが、現在は大学をつくる条件がないという現実立って、しかし「高等普通教育」の内容をもった教育を施せば有為の人材を育てることができるといふ信念は揺るがなかったのである。

私は金さん、余君の文章に感動し、本学の教育がこういう人間を育成しえた、あるいは育成しているということに改めて誇りと自信をもったのであるが、それはまさに本学園が創立時から目指したことだったのである。すなわち金、余両君は高等普通教育の内容を忠実に辿り、そこで与えられた知識を真に自分のものにし、その過程でりっぱな人格を形

成したということである。

教育の内容すなわち教えられる知識は変化するし、知識を伝える媒体も変化をとげる。しかし教育の目指す目的、方向はそう簡単に変わるものではないであろう。私は、金、余両君の文章に出発して、今高等普通教育の原点にまで辿りついたことになる。私個人としては、本学の教育成果の中にそういう確認ができたことを有り難いことと思っているが、この考察の材料はすべて『雄峯』第51号に用意されていた。金、余両君の文章は『雄峯』編集者の依頼に留学生担当の部署（国際交流センター）部長塩谷由美子教授が適切に対応して整えられたものと聞く。

なお、この創立70周年記念座談会は本学教育の原点を明らかにする意図をもった企画である。富士短期大学から東京富士大学へと一貫する本学の教育目的、使命は創立当初からの揺るぎないものであるが、それは大世学院の寄附行為において新しき時代に即した形で明確にされた。そのことに関して、座談会では高田先生に対する内ヶ崎作三郎先生の影響を問題にしている。高田先生の指導教官であった内ヶ崎先生へ光を当てることによって、高田先生の偉業はさらに広がりをもった輝かしいものになる可能性がある。座

談会では高田先生の示した、人道主義、平和主義、国際協調主義、人間教育といった方向性が恩師内ヶ崎先生の影響の下に固められていたのではないかと見方が示されているが、勿論そのことは高田先生の偉業を損なうものではなく、それどころか高田先生の先見性はむしろ根拠あるものだということを明らかにし、その信頼性を高めるための作業となっている。

なお『雄峯』の第49号に「内ヶ崎作三郎先生小伝①」（編集委員会）の掲載があり、また、平成25年発行の『富士論叢』第58巻第1号（学園創立70周年記念号）には特別寄稿として藤井直名教授の「内ヶ崎作三郎とその時代」と題する論文が掲載されている。

ともかく私のこの文章の内容に関わる材料はすべて『雄峯』第51号に依っており、そのお陰で本学教育の原点を自分なりに再確認させていたことに對し『雄峯』編集委員会に感謝を申し上げておきたい。

〈東京富士大学初代（通算第八代）学長

学生時代の「出会い」は一生の宝

こうげ 幸家 俊輔

私は高校時代、勉強せずに遊んでばかりいて、結局高校も途中で辞めてしまいました。親にも迷惑をかけてばかりでした。高校中退後、私は地元沖縄で観光関係の仕事をするこゝたになりました。そこでは観光客との接点が多く、彼らから色々な話を聞くうちに「都会ってどんな所だろう」と次第に興味がわいてきました。そしてなぜか「大学に行こう」と思いました。不思議なことに、高校もまともに卒業していないのに、大学にいけるといふ根拠のない自信がありました。

それからは目標ができました。昼は働き夜は勉強と、充実した毎日を通しました。忙しい日々が報われ、高校卒業程度認定試験に合格しました。その後東京富士大学にも合格し、念願の東京進出を果たしました。この大学を見つけたのはネットで「新宿」渋谷「池袋」の3つ、つまりその当



時私を知っていた都会の街の名前でした。都会の大学に行ければ良

かったので、実を言うと大学選びはいいかげんなものでした。それでも東京富士大学での学生生活はとても充実したものになりました。その意味で私は幸運だったのかもしれない。

憧れの東京は刺激的でしたが、人付き合いには苦心しました。誰一人知る人のいない東京では、自分から話しかけないと友人もできませんが、話しかけるにしても文化の違いに戸惑ってばかりでした。私が沖縄出身と分かると「なんくるないさー（なんとかなるさ、という意味）、シークワサー（それは果物だし!）」とか言って手を振ってきたりする人もいました。「方言を馬鹿にするな! 使い方違うだろ!」と、腹が立つこともありました。

一方、私が東京富士大学で出会った人たちは皆、親切で優しく、そして個性的な人たちでした。関東出身の友人たちは、おいしい食べ物、電車の乗り方など、様々なことを細かに教えてくれたり、東京の観光地に連れて行ってくれたりしました。彼らは私の良い所も悪い所も理解してくれ、駄目なことは駄目、良いことは良いとはつきり言ってくれま

す。互いに尊敬できる貴重な存在に出会い、本当にありがたく思っています。東京の人との付き合い方も下手だった私が、色々な人と付き合い合えるようになったのも学校の友人のおかげだと感じています。

東京富士大学での出会いは、学生だけではありません。ここには気さくで学生目線で接してくれる先生方が多く、授業のことだけでなく世間話を始め様々なことを話しました。

とくにゼミの先生とは話す機会も多く、最初は大学の先生は堅い人というイメージでしたが、ゼミに入っですぐそのイメージはなくなりました。とにかくおもしろくて、私の知らない世界の話が聞けて新鮮でした。先生は自然の豊かな所から通っていて「道路でシカに会った」とか「本当に死ぬほど寒いよ」などと話してくれれます。野生のシカなんて見たこともないし、気温が変わるほどの所に電車で行けるなんて沖縄では考えられません。

そんなことひとつひとつが沖縄出身の私には面白かったのです。ゼミの活動でも先生にはお世話になりました。文化祭での出し物やゼミ発表大会などの学校行事で私をリーダー

に推薦してくれたり、生徒が進んで活動できる環境を作ってくれました。今でもその期待に応えられていたのか自信がありませんが、自分としては一生懸命に取り組んだつもりです。

今思うと、私は東京富士大学にきて友人にも先生方にも恵まれたと感じています。もちろん失敗したことも、怒られたこともありましたが、でも大学とはそういう場所ではないかと思えます。人間関係を学び、新しい世界を知り、失敗し、怒られて成長することの大切さをこの大学で学ぶことができました。ある意味でそれは勉強より大事なことではないかと思えます。

卒業したら地元に戻り地元の企業に就職しますが、東京富士大学で学んだ4年間は一生忘れないと思います。その4年間は多くの出会いがあったからこそ充実したかけがえのないものになったと思えます。

良い仲間、良い先生方に出会えて本当に幸せです。社会人になっても様々な「出会い」に感謝を忘れず、頑張っていきたいと思えます。

(平成26年 経営学部経営学科)

旅

陳 碧珍
ちん へきちん

旅に出るとその先にある何かが人をわくわくさせ、期待を持たせます。楽しいこともあれば、つらいこともあるでしょう。それでも人は旅人となり、その人にしかできない旅を続けるのです。

初めて来日した日、飛行機を降り、今回の私の旅の目的地である成田空港に足を降ろしたその瞬間、私は異邦人となりました。夜空から秋雨が降る中、電車の窓の外を流れる風景は雨に霞み、現実感薄かったです。全てが冷たく遠く感じました。それが日本との初対面でした。

それから一か月ほど経って小旅行で長瀨に行った時、そこで初めて紅葉に出会いました。鮮やかな紅と輝くような黄色が樹木を覆い、とても眩しく暖かく感じられました。

やがて寒い冬が幕を閉じ、桜が咲き乱れ春がやって来る頃には、私は言葉が少し通じるようになり、この美しい花や自然に囲まれた日本でどんな旅ができるのか楽しみに感じられるようになりました。



時が流れました。

て、東京富士大学に入学し、四年間の学生生活が始まりました。一年生のある日、部屋を掃除していて、偶然か必然か、大学の教養課程である華道の案内をみつけました。それまで日本のあちこちで自然にふれあつた時、異国にいることを忘れてとても穏やかな気持ちになれたことを思い出し、お花を通じてその気持ちを味わえるかもしれないと思いました。その時は申込期間が既に終わっていて、華道との縁は、一度はすれ違いに終わってしまいましたが、諦めきれず一年後に申し込みました。

二年生になってやっと始めた生け花は、「難しい」というのが最初の授業の感想です。始めた当初は先生の真似をして基本の型に花を生けて、きれいな花に満足していただけでした。続けていくうちに自分の思うように生けられるようになると、生け花をもっと知りたい、もっと良い作品ができるようになりたいという思いが徐々に強くなってきました。

生け花は、まずは素材と器の組み合わせです。器によって生ける形や方法が違います。水盤型の器には剣山を使用します。背の高い寸胴型

の器は剣山が使えないので投げ入れになります。まったく同じ花と器でも、置く場所や季節、その時の行事によって趣きの違う作品が出来上がります。生け花は生ける人の内面も表現するものです。私は他の人の作品を見て、いつもなるほどと感心しました。

ただの好奇心で生け花の世界に飛び込んで3年が経ちました。一番嬉しいのは自分が成長できたことです。

花の生け方が少しずつ上手になってくると、生ける時の感覚も変わってきました。すいすいと生けられて順調なときもあるし、何か心に不安があつたりすると手が止まってしまつて行き詰まつたときもありました。お花にはその時の心の状態が映し出されるのです。お花に没頭する一時間は、自分の生け花の出来栄を分析するだけでなく、自分の考え、歩いてきた道や将来のことなども含めて、自分とじっくり対話することができます。毎回の達成感と喜びを繰り返して、私は以前より自信が持てるようになりました。

かすみ草のような華奢な花も実はとても強いのだと分かるように



なったのも生け花のおかげです。か細く弱く見えた花も少し工夫してあげればしっかり立てるようになるのです。育つた環境を離れても、きちんと生けてあげれば、どんな場所でも蕾が花を咲かせ、長く楽しませてくれます。このようなお花の強さは私に勇気を与えてくれました。故郷を離れ、異国で旅人となった私も、しっかりと自分の足で立ち、未知の世界を歩んでいかなければならないのです。

留学という列車はもうすぐ終着駅に到着し、この旅も終わりになります。これから私はどのような旅に出るのかまだわかりません。ただ一つ言えることは、どんな旅になろうと私はもう迷わないということです。与えられた場所で私も強く生きていきます。

(平成26年 経営学部経営学科)

私の大学院生活

陳 英

私は中国福建省から参りました。来日して、今年8年になりました。8年間のうち、6年間は東京富士大学として大学院で過ごしました。この6年間は私にとっては大いに有意義な学校生活でした。特に大学院の2年間は私にとっては一生忘れられない時期だと思います。時間は早いもので、2年と言っても、あっという間に卒業を迎えています。



いまして、ゼミの先生とじっくり相談した後、大学院に進学する

今振り返って見ると、私は東京富士大学に入った頃は卒業したら、すぐ就職するつもりでしたので、大学3年の秋学期に、積極的に就職活動に参加したこともありましたが、しかし、合同説明会でいろんな会社の説明を聴き、また多くの会社にエントリーしましたが、返事が少なく、返事をいただいたとしても、一次面接で落ちたことを何回も味わいました。悲しいなあと思いつながら、自分には更に力を入れて勉強しなければ、激しい就職競争の中で勝てないと思

ことに考え直しました。大学4年間よく面倒を見てくださった山川先生に書いていただいた推薦書と、自分で書いた研究計画書を提出し、そして面接を受け、合格しました。

大学院に進学できたことを家族に知らせたら、皆がすごく喜んでくれました。家族の支えが自分の学習意欲の原動力になり、自分が絶対に時間の無駄のないように頑張るって良い成績を取って皆に報告しなければならぬと決意しました。

春に入学して、同期の親しい顔、初めて出会った他校の新しい顔、合わせて11人いました。皆と挨拶し、それから仲良く一緒に頑張ろうとお互いに励まし合いました。そして、大学院生活が始まりました。

今までの学生生活の中で、一番大変だったのは大学院の一年生の時でした。学校が始まったばかりですが、すぐに自分の専門ゼミを決めなければならぬと、私は河野先生の「技術経営」を選択しました。ゼミを決めた後にすぐ先生と1対1の授業が始まりました。最初は先生と相談し、研究方向を定め、毎週優れた論文と専門分野に関連する論文を読み、理解し、レポートを作成して、報告

するという順番で進みました。また、専門以外の科目も同時に選択、履修しなければいけません。この一年目は本当に思ったより大変でした。なぜなら、大学院の授業は学部るときと違って、プレゼンテーションが中心なので、毎週、発表のために、いっぱい時間をかけ、文章を読み、理解し、レポートを作成しなければなりませんでした。

また、留学生として、自ら学費を稼ぐために、バイトもしなければならぬ、大変だなあと思いつながら、いろんな方法を考えてみました。最後には手帳を使い、時間を細かく分けて、毎日のスケジュールを作り、スケジュール通りに実行することにしました。しかし、時には、疲れて、決めたスケジュール通りに実行しようとしても、なかなか実行できないときもありました。よって、発表日の前日に深夜までパソコンの前に座り、レポートを作成しなければならぬ、こういうふうには、一年間頑張りが続きました。当時は辛くて、泣き出すこともありましたが、忙しい一年が終わり、成績表を手にしたとき、全てが「S」であるのを見たとき、大変嬉しかったです。

また、大学院二年初春に、一年次の学習成果を評価していただき、高田奨学生に選ばれました。夏休みの前に内定が決まり、就職活動は順調に終了しました。秋学期に入って、修士論文の資料をまとめ、整理、本番用の論文を書き始めました。先生の指導を受け、書き直し、再度、指導教授に確認していただき、12月末に全文を完成しました。今は大きな達成感を味わっております。

日本に留学し、また東京富士大学に入って大変よかったと思っています。経営学部として大学院の6年間の学校生活のおかげで、自分は白紙から、経営に関する知識を使い、4万字の論文も書けるようになりました。また、学校で学んだ知識を就職活動で発揮し、内定をいただきました。この大きな成長は全て東京富士大学の優しい先生方、親切な学友、またいつも支えてくれる家族のおかげです。このページをお借りして、学友、先生方、家族に感謝を申し上げます。

いよいよ社会人になるのだと思えば、寂しくなる気持ちもありますが、ワクワクもしています。これからも日々感謝の気持ちと自信を持って、明るい将来に向かって歩いていきます。

(平成24年 経営学部ビジネス心理学科)
(平成26年 大学院経営学研究科修士課程)

東京富士大学大学院での修了にあたって

網中 祐治

私は、東京富士大学で4年間学ばせていただいた後、大学院の経営学研究科に進学させていただきました。もともと、学部の方に入学させていただいたのも、税理士である母の「自分の税理士受験当時に多くの税理士を輩出し、税理士の間で知られている先生も在籍していた」との話で知ったからです。

学部では、簿記と法人税を主に勉強し、特に税法等の法律に深く興味を持ちました。しかし、学部では、税理士試験の科目合格を取れず、将来どうしようかと悩み、日頃からお世話になっていた石塚先生に、「大学院生にも税理士受験者もいるし、修了生で税理士資格をとった人がいる」と伺ったので、勉強と資格試験のために大学院に進ませていただきました。



大学院に入学してから、自分にとって大きかったのは、ゼミにおいての矢吹先生と先輩方との勉強を中心とした交流に尽きるところだと思います。まず、矢吹先生は、税理士

業をなさっている実務家であったことから、税理士になる上での必要な考え方、知識、これからの税理士のあり方等を授業中に教示いただき、目の前の試験にしか考えが回らなかった私が、具体的にどのような税理士になるかと考えるきっかけになりました。

従来、実務家の税理士と話すことは、一地方都市で開業している母としかなかったことから、東京で大きな事務所を持たれている矢吹先生とのお話は、非常に刺激的で、貴重だったと感じています。また、知識の面でも、法人税の相談を受けるときには、会社法の知識を含めたアドバイスが重要であること、所得税や相続税は民法との関連性が深いことから、それぞれ、実務につく際には、勉強した方がいいといったことも教示いただきました。

一方、先輩方も、同じ志の中で、税理士試験をうける仲間として、夏まで高め合ったのち、秋からは私の論文の資料探しと先輩方の論文の手伝いの為に、毎週、中野にある租税史料館の会議室を借り、各自の論文について学び合い、構成や文章の運びを考え、意見をぶつけ、それ

ぞれの論文をより良い形にしていくことができました。

この先輩方の論文を手伝った経験が、後に自分が修士論文を書く上で悩んでいるときの対処法などの助けになったと感じています。また、先輩方が卒業されてからも、会計法人に勤めてからの経験談や自分の修士論文の相談など多くのことでお世話になりました。

ゼミ以外の大学院での授業を振り返ると、少人数であり、先生方との会話の中で授業を進めていくので、学部とは異なり、その学問の知識やそれに対する考えを持っていないと授業についていけないことから、学部で幅広くしっかり勉強しておけばという後悔をしながらも、勉強して喰らいついていきました。

そのうち、先生や他の院生と意見を交わすうちに、新しい価値観や思考にふれ、とてもそれを新鮮に感じながら、私の視野や見識が大きく広がったように感じています。

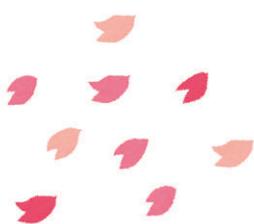
私の修士論文では、一から矢吹先生が指導してくださったこと、先輩方との意見交換、相談、また、資料などを読むときも授業による視野の

広がりにより、論文にフィードバックしやすくなったことなどに助けられました。こうしてみると、大学院での研究環境の良さに支えられて書けた修士論文といっても過言ではないと考えています。

最後に、大学院修了は上記のとおり、たくさんの方の先生方、院生の仲間を支えられてできたことだと思っています。大学院で幅広い知識や考え方も学びましたが、社会に出るにあたって、多くの人に支えられて私も物事も成り立っているということを感じて学べた気がします。

このことを糧にして、将来税理士になったときも、社会の一員として日本や世界に貢献できればと考えております。改めて、このページをお借りして、私の大学院生活を支えてくださった方々にお礼を申し上げます。

(平成24年 経営学部経営学科)
(平成26年 大学院経営学研究科修士課程)



● 支部活動報告

福島県支部最近の活動について

副支部長 三浦政一

福島県支部は、故数間治久初代支部長、鈴木元前支部長始め多くの先輩の献身的な活動と、校友会本部のご支援のもと、現在、千葉公元氏を支部長として迎えております。

福島県は、平成23年3月11日の東日本大震災と同時に発生した東京電力原子力発電所事故に伴う放射能汚染で多くの県民が現在も避難を余儀なくされております。

支部会員の被災は、県支部の被災調査によりますと大なり小なり発生した訳であります。特に4名の会員が自宅倒壊等で居住困難のため、避難されておられることが判明致しました。この方々には校友会本部のご配慮によります義援金をお届けさせていただきました。改めて感謝申し上げます。

福島県支部は、会員名簿上は約60名の本校卒業生が把握されておりますが、残念ながら、月日の経過と共に転勤や結婚等での住所変更で、郵便物が返送されるケースも多くなっております。

県支部会員への大切な事業として、現在定期発行の校友会報『雄峯』の送付を行っております。

更に大事な事業として、平成25年9月7日には、福島県郡山市「レ

イクサイド磐光」にて県支部の総会を開催いたしました。

総会開催に際して、校友会本部にご出席をお願いしましたところ、公私共にご多用中にも関わらず遠路、本間玲次会長、関山賢司副会長、森川昇副会長、江種康人相談役、谷口幸恵常任理事、八城一夫事業部長、秋元耕一組織部長のご列席を賜りましたことに深く感謝申し上げます。総会では平成23・24年度事業報告並びに決算報告、平成25・26年度事業計画案並びに予算案の審議・決定を行いました。

決定した支部の運営予算につきましては、会員よりの会費（任意の協力金）と、校友会本部からの助成金で総会や『雄峯』の送付等を行うことで従来通り決定しました。

なお、総会では今後の事業運営にあたって、県支部のメイン事業である総会への参加者の増加策について、会員への呼びかけ強化策や新規入会促進策等が話し合われました。また総会に引き続き懇親会が開催され、懇親と忌憚のない意見交換が行なわれました。

また例年通り校友会本部総会への県支部役員の参加も承認されました。

以上が、事業概要であります。いずれも校友会本部のご指導をいただきながら実施しておりますが、支部事業への会員の積極的な参加をもっと図れないか、そのためには、有意義な事業は何か、といったことが引き続きの課題であります。

その点、総会終了後に早速校友会本部から福島県在住卒業生の情報を頂くことができ感謝申し上げます。今後、県支部として校友会

● 支部訪問記

福島県支部を訪問して 八城一夫

平成25年9月7日（土）横浜からおおよそ300kmの道のりを半日かけてドライブし、猪苗代湖畔に着いたとき「レイクサイド磐光」は小雨の中でした。

校友会は新会長の本間執行部となり、私も新事業部長ということでご挨拶にお伺いしようと思ひ、福島県の諸先輩方に初めてお会いできることを楽しみに、福島県支部の総会に参加させていただきました。

総会の開催は2年毎だそうですが、2年分の事業報告と収支決算報告、監査報告、そして事業計画案及び予算案等が滞りなく承認されました。

課題は、支部の活性化対策として、新入会員の増強とのこと。懇親会では鈴木元前支部長、千

会員へのPRに努め、充実した活動に向け努力をしてみたい。

今後共、会員に支えられた支部である事を基本に、会員のために何ができるかといった話し合いを引き続き進めることと、母校東京富士大学の発展に些かなりとも貢献できましよう、本部のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

（昭和48年 経済学科通教）

葉公元支部長、久下賢二事務局長はじめ支部会員の皆様と、校友会や母校への思いを語り合い、福島県にはこんな熱心に活動してくださっている方々がいらっしやるのだから、本間執行部も校友会の活性化と母校の発展のために一層の努力をしなければならぬと感じました。

翌日は千葉支部長の配慮で、通常の観光では行かない亀ヶ城を案内していただく予定でしたが、私は何故かはぐれてしまい、会津若松市の若松城（鶴ヶ城）を見学いたしました。ちょうどNHK大河ドラマ「八重の桜」で人気が出て、観光客も多く賑わっていました。

支部の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。お陰様で福島県の温かい諸先輩と歴史の一

端に触れ有意義な時を過ごせました。

(昭和49年 経済学科二部)
(平成16年 経営学部夜間主)

● 支会報告

雄峯マネジメント研究会

事務局長 森川 昇

我々の会は、年4回3カ月毎に例会を開いています。事業年度は、6月1日から翌年5月31日までの一年間です。

まず、6月に総会があり9月、12月、4月の第1金曜日に例会を開いて、会則第2条にあるマネジメントの研究を中心に、会員の交流で親睦と情報交換を図っています。

今年度の活動報告ですが、平成25年6月7日(金)に銀座にある南海東京ビルディング会議室で定時総会を開催し、第1部が総会、第2部が懇親会と2部構成でおこないました。総会に先立ちまして、井上宏美会員のスペイン旅行の報告会がおこなわれました。

第1部の定時総会は、①平成24年度事業報告承認の件 ②平成24年度収支決算報告承認の件 ③平成25年度事業計画案承認の件 ④役員改選の件が審議され、いずれも原案どおり承認可決されました。役員改選では、現会長の北村啓吉会員が再任されました。第2部は場所を移して「浜町亭銀座店」で懇親会をおこないました。

平成25年9月6日(金)の例会で

は、若狭茂雄前校友会会長を講師に迎えて、会長時代の思い出とか苦労話などを講演いただき、トップの苦悩の一端を知ることができ良いお話でした。出席会員からも質問がでて大変盛り上がりました。

平成25年11月29日(金)(例年は12月)の例会は恒例の忘年会を東銀座の「竹取の庭」遊庵でおこないました。

平成26年4月4日(金)の例会は、江種会員に「生かそう 生かしたい お釈迦様の教え」人生に 経営に組織に」と題してお話しをしていただきます。その後、懇親会をおこないます。

引き続き、会員を募集しています。マネジメントに関心、興味のある方は森川にご連絡ください。

(昭和47年 企業経営学科二部)

● 支会報告

少林寺拳法部雄峯会

会長 本間 玲次

平成25年度の活動状況について報告させていただきます。

毎年、現役の少林寺拳法部の復活を目指し、毎週木曜日、学校当局のご厚意により本館地下武道場を使用させていただいていました。が、本年より現役部員の希望により月曜日に変更し、練習を兼ねて学生の勧誘と指導をしてきました。残念なことには今年に入部者がなく、せっかく少林寺拳法部同好会として認めていただいたのですが、今年度、現役学生が卒業することになり、またまた休部状態に陥ることになりそうです。来年度は何とか頑張ってお入り部者を募集すべく、雄峯会の総力を上げて望みたいと思っております。

今年度は、我々少林寺拳法部創部50周年にあたり、記念事業として祝賀会の挙行を計画し、平成25年11月16日(土)13時より、「新宿プリンスホテル・アリア」にて、招待者・会員合わせて60名を越える人達の出席をいただき、盛大に開催することができました。何十年ぶりの懐かしい顔も集い、旧交を温めることがで

き、楽しい時間となりました。

校友会からは、前会長 若狭茂雄氏をはじめ、副会長・部長・事務局・監事の皆様方、少林寺拳法関係では、少林寺拳法関東学生OB会連合会の会長・副会長他、多くの方々に、ご多忙中にもかかわらず、ご出席賜り心より厚くお礼申し上げます。

その他の行事につきましては、開催順に報告いたします。

①4月27日、28日の一泊二日、春の合宿を秩父にて行ないました。
②5月17日、18日、一泊二日で新潟県六日町へ、春の旅行会を実施しました。

③6月22日、校友会総会出席後、雄峯会の総会を実施、現状の報告と当会50周年事業の方針を説明しま



少林寺拳法部創部50周年記念祝賀会

新役員就任挨拶

副会長 関山賢司



校友会の役員を引き受けて50年以上になります。その間、会

員相互の資質の向上と親睦を図り、母校の発展に微力ながら尽くしてまいりました。なかでも校友会活動に多くの卒業生が参加していただけるよう心掛けるとともに、会員間の融和に心を砕いてまいりました。

その他、支部・支会の助成についても積極的に努めてまいりました。

今、改めて述べたいことは、体力を維持することと、勉強を続けることです。良い友達を作るには、人の話をよく聴くことです。健康の管理と勉強は欠かせません。良く聴くことは知識と情報を確実に自分のものにするができます。

読書と語学は生涯の友達を作り世界の人と交わることができます。「人中が薬」という言葉があります。参考にしてください。

最後に、挨拶を交わす人になっていただきたいと思えます。

(昭和36年 経済科)

副会長 藤井 直



神妙な気持ちです。

徐々に覚悟を確かなものにいたします

ので、どうぞよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

(昭和42年 経済科)

副会長 森川 昇



会員の皆様、こんにちは。日頃より校友会活動に對しご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、私は前任者の後を引き継いでから、組織部長を6年間務めさせ

ていただきました。このたびの総会

で本間新会長が誕生しました。引き続き現職に留まって協力するつもりでおりましたところ、急遽、私に副会長の要請がありました。大変身の引き締まる思いであります。私自身、力不足ではありますが、受けさせていただきました。

これからは、本間会長を微力ながら支え、会長のおもいを共有し、校友会の発展と併せて母校の発展に寄与するように共に進んでいくつもりでおります。

会員の皆様には、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。副会長就任の挨拶といたします。

(昭和47年 企業経営学科二部)

事務局長 北爪 登



この度の役員改選により事務局長を仰せつかりました。

ました。

④ 6月23日、少林寺拳法関東OB連合会・定期総会に出席しました。

⑤ 11月3日、東京富士祭にて少林寺拳法演武会を会員・現役合同で、団体・組演武を披露しました。

⑥ 11月23日、少林寺拳法関東OB連合会の「第19回 OB・現役懇親会」に出席しました。

⑦ 12月6日、例年通り、新橋「新橋亭」にて忘年会を開催しました。

今年の秋の旅行会は、10月25日～26日に予定していましたが、台風のため中止にしました。また、秋の合宿は50周年事業のため中止にしました。

以上、活動状況を報告させていただきました。

新年度は、毎週木曜日、本館地下武道場にて、雄峯会の練習を予定しております。時間のあるときは是非、道場に見学に来てください。

(昭和41年 経済科二部)



東京富士祭演武会

昨年古希を超えたところです。数年前に退職しています。出身は上州赤城で現在の住まいは上総国市原市です。座右の銘は「真実一路」で、これは羅針儀となり生涯捨てることにはないでしょう。

今までは名ばかりの理事で校友会の運営等について不勉強、怠慢の誇りは免れません。しかし「少林寺拳法雄峯支会」として長い間ご支援をいただいております、機会があればお返しできればとの存念もあつてお受けしました。

前任者の江種康人氏には遠く及びませんが、皆様のご協力とご支援のもとに、潤滑剤となつて良き校友会となるよう尽す所存です。

事務局は今年度から次長職を設け、二人体制にし、主に会計業務を担当していただくことにいたしました。次長職には平柳光氏（平成18年経営学部ビジネス学科卒）に快諾をいただきました。平柳氏ともどもよろしくお願い申し上げます。

（昭和43年 経済科二部）

事務局次長 平柳 光

この度、事務局長のお手伝いをさせていただきますこととなりました。



前年までは総務部長として校友会の行事の進行に協力させていた

いただきましたが、今回は多忙な事務局長の補佐として事務局次長を仰せつかりました。

事務局の経験はありませんが、校友会の発展と年間行事のスムーズな運営に微力を尽くしたいと思いません。

（昭和47年 企業経営学科二部）
（平成18年 経営学部夜間主）

総務部長 青野 貴礼



この度総務部長に就任いたしました。

昨今の校友会は高齢化の波にさらされ、40代の私とて最年少常任理事の一人として、色々こき使われておりました。

しかし、学部を卒業して7年、大学院を修了して3年「いつまでも無責任な立場でふらふらしているのは問題である…」と校友会の若返りの

一環（部長陣の平均年齢引き下げ）で総務部長たることを拝命することになった次第であります。

理事のほとんどが私より年上で、「長」と云われる立場に立つことにはなお違和感が付きまといませんが、逆にこれから新たに校友会の理事や委員に選任される人たちは近く接することができるとは思いません。

「自分の母校」を、後輩たちが誇れる大学にできるよう、非才ながら微力を尽くすつもりですので、よろしくお願い申し上げます。

（平成18年 経営学部夜間主）
（平成22年 大学院経営学研究科修士課程）

事業部長 八城 一夫



この度、本間玲次会長より事業部長を仰せつかりました。

これまで会報誌『雄峯』の編集をお手伝いさせていただいておりましたが、校友会の全般的な活動をあまり理解しておりませんので、ひとつづつ勉強しながら母校と校友会の発展に微力を尽くしたいと思いま

す。

事業部は、各種研究会及び親睦会の開催、会報の発行及び配布等を行う部ですが、会員の皆様のご協力無しではどれも実現することができませんので、どうぞご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

（昭和49年 経済学科二部）
（平成16年 経営学部夜間主）

組織部長 秋元 耕一



この度、森川昇前組織部長の後を受けて、本間玲次会長より組織

部長を命ぜられました。本間会長とは少林寺拳法部で5年のお付き合いがあり、喜んで受けさせていただきました。

これから校友会の発展のため頑張つてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（昭和42年 経済科二部）

「叙勲の栄に浴して」

木村光雄

平成25年春の叙勲に際し、旭日小授章の栄に浴し、去る5月16日に皇居に参内し天皇陛下のお言葉を賜り無上の喜びとともに、今なお感激の極みでございます。

顧みますと、昭和49年2月に税理士登録をして以来40年、この道一筋に歩んでまいりました。

昭和51年4月、より一層の自己研鑽のため富士短期大学の門戸を叩き入学許可をいただき、二年間は通信教育課程とはいえ、一定の単位を取得するため上京し、スクーリングを受けたことを今は懐かしく思い出されます。

そんな折、座禅のため京都を訪れて、坂本竜馬の定宿だった「寺田屋」で出会ったのが竜馬の書いた「遊魚動緑荷」の扁額でした。

「池水に戯れる魚でさえ、緑の蓮の葉を動かしているではないか。ましてや人間が国を動かさずしてどうする」という意味の言葉です。私は竜馬のこの言葉に大いに触発され、それ以来「荷」を省略して



は竜馬のこの言葉に大いに触発され、それ以来「荷」を省略して

「遊魚動緑」の4文字をずっと胸に刻み込んでいます。

その後、税理士業務のみならず税理士会の公務に専念し、平成13年6月から3期6年間、北陸税理士会会長と日本税理士会連合会副会長として、社会の要請に応えるべく多くの改革改善を推し進めることができたと自負しております。

現在は国税審議会委員、公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会会長を務めております。これからの時代を支える医療・保健・介護・福祉に関する医業経営の分野は、益々高齢化する日本社会において重要且つ有望な世界であると考えます。

この度の受章は、各分野でご厚誼をいただいた皆様の温かいご教示、ご支援によるものと衷心より深く感謝している次第です。今後は、この榮譽と感激を励みとして、いささかなりとも社会に貢献できますよう精進を重ねてまいります。

最後に、東京富士大学のご発展と、先生・先輩・学友・学生諸君のご健勝とご多幸を心から祈念し御礼といたします。

(昭和53年 経済学科通教)

〔文芸〕

春雷 関實

初詣英語まじりの法話聞く
故郷に思いをはせる箱庭の雪
春雷の一撃響く机上かな
亡き妻としだれ桜の傘の内
新茶飲む世界遺産の富士眺め
久方の七夕の夜の一人旅
我街の終ひの御輿を担ぎ上げ
昼下がりにいづれも正面蟬時雨
螢火の裏手に廻り闇深し
一山を越えて一山もみじかな
落葉踏む音の変わりて石の橋
逝く年の妻が手植の袖の数

(昭和36年 経済科二部)

賀状書く 大原芳村

洗はれし町匂ひたつ夕立あと
百尋の堰の飛沫や虹生る
颱風の眼の中にあてピアノ弾く
虚子とのみ彫られし墓や秋深む
土牢にとどかぬ光木の実落つ
母を入れし日のごと柚子湯あふれしめ
熱燗やぐらりと酔ふて故郷あり
賀状書く地名に多き富士見町
霜柱踏みぬ踏絵を踏むやうに
蒼天や雪庇に風の一走り

(昭和50年 企業経営学科二部)

東京富士大学校友会 平成26年度 総会のお知らせ

日時 平成26年6月21日(土)
午後1時00分～4時30分
(講演会も予定されています)
会場 東京富士大学 本館1F
メディアホール
懇親会 総会終了後
新宿プリンスホテル
地下2階 アリタリア

東京富士大学校友会 平成26年度 研究会のお知らせ

日時 平成26年11月2日(日)
(予定)
午後1時30分～3時30分
会場 東京富士大学 五号館
演題・講師は未定

平成25年度 学園行事

4月

入学式(4/3 二上講堂)
フレッシュマン学外オリエンテーション(4/4・5)
学内オリエンテーション(4/8 二上講堂)
教員懇話会(4/11 プリズムホール)

5月

第45回東京都大学ソフトボール連盟春季リーグ戦(1部)
(4/28)5/4 東京女子体育大学グラウンド
早稲田大学所沢グラウンド)
東京富士大学 14・0 東京学芸大学
東京富士大学 2・17 東京女子体育大学
東京富士大学 3・0 日本体育大学
東京富士大学 2・1 早稲田大学
東京富士大学 8・7 国士館大学
4勝1敗 準優勝

平成25年度春季関東学生卓球リーグ戦(1部)

(5/2)14 大田区総合体育館代々木第二体育館
東京富士大学 2・4 専修大学
東京富士大学 4・0 早稲田大学
東京富士大学 4・2 日本体育大学
東京富士大学 4・0 青山学院大学
東京富士大学 4・3 中央大学
東京富士大学 1・4 淑徳大学
東京富士大学 4・0 日本大学
5勝2敗 3位

創立記念日・創立70周年祝賀会

(5/17 帝国ホテル)
第65回全日本総合選手権ソフトボール大会東京都予選会
(5/18)19 福生市加美平野球場 福生市営野球場
1回戦 東京富士大学 7・6 東京女子体育大学
2回戦 東京富士大学 7・0 BUN BUN
準決勝 東京富士大学 2・7 日本体育大学
3位

第48回体育祭

(5/29 東京富士大学日高総合グラウンド)
平成25年度関東学生卓球新人選手権大会
(5/30)31 所沢市民体育館)
女子シングルス
ベスト8 鷲塚桃子(経営学部1年生)
後藤奈津美(経営学部1年生)

女子ダブルス

ベスト8 古川聖奈(経営学部1年生) 組
ベスト8 鷲塚桃子(経営学部1年生) 組

6月

日本学生支援機構奨学金予約採用奨学生証授与式及び説明会(6/3)
高田奨学生授与式(6/12)
学生大会(6/14)
卓球ワールドツアー「ジャパンオープン大会」
(6/19)23 横浜文化体育館
アンダー21女子シングルス出場
平野容子(経営学部3年生)

第48回体育祭反省会

(6/28 リーガロイヤルホテル)
第83回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)
(6/27)30 豊田市スカイホール豊田)
決勝トーナメント
1回戦 東京富士大学 3・0 日本体育大学
2回戦 東京富士大学 3・0 中京学院大学
準々決勝 東京富士大学 2・3 立命館大学
女子団体 6位

7月

第38回宮城県防具付空手道選手権大会
(7/7 気仙沼市総合体育館)
男子組手 高校一般無段者の部
出場 河原 隼斗(経営学部1年生)
第27回ユニバーシアード競技大会
(7/8)15 ロシア・カザン)
女子団体 優勝 日本チーム
平野容子(経営学部3年生)

平成25年度関東学生卓球選手権大会

(7/11)14 和光市総合体育館)
女子シングルス
優勝 池上玲子(経営学部1年生)
ベスト16 暴 小雨(経営学部3年生)
小鉢友理恵(短大部2年生)
女子ダブルス
2位 池上玲子
後藤奈津美(経営学部1年生) 組

3位

ベスト8 伊積さくら(経営学部3年生) 組
古川聖奈(経営学部1年生) 組
学生パフォーマンスLIVE
(7/20 二上講堂)
日本学生支援機構奨学金在学定期採用奨学生証授与式及び説明会(7/25)

8月

春季期末試験(7/29)8/2)

第28回東日本大学ソフトボール選手権大会

(8/10)12 岩手県花巻市石鳥谷町 石鳥谷ふれあい運動公園)
1回戦 東京富士大学 17・1 順天堂大学
2回戦 東京富士大学 7・0 東京女子体育大学
準々決勝 東京富士大学 5・2 日本体育大学
準決勝 東京富士大学 4・2 東北福祉大学
決勝 東京富士大学 0・3 山梨学院大学
準優勝

第48回全国私立短期大学体育大会

(8/5)7 東京体育館新宿コマックスポーツセンター)
卓球女子 女子シングルス
優勝 小鉢友理恵(短大部2年生)
2位 鈴木せり奈(短大部2年生)

平成25年度秋季関東学生卓球リーグ戦(1部)

(9/2)6 大田区総合体育館)
東京富士大学 4・0 日本体育大学
東京富士大学 3・4 早稲田大学
東京富士大学 4・1 大正大学
東京富士大学 4・0 日本大学
東京富士大学 4・3 専修大学
東京富士大学 2・4 淑徳大学
東京富士大学 4・3 中央大学
5勝2敗 3位
最優秀ペア賞 平野容子(経営学部3年生) 組
岡れいさ(経営学部3年生)

第48回全日本大学ソフトボール選手権大会

(9/7)9 大阪府交野市総合体育グラウンド)
1回戦 東京富士大学 2・3 大阪国際大学
第2回日本リーグ・日学連対抗卓球ドリームマッチ
(9/15)16 新発田市カルチャーセンター)
女子シングルス
3位 平野容子(経営学部3年生)

10月

第7回関東学生卓球チームカップ(Aブロック)
(9/27)10/7 所沢市民体育館代々木第二体育館)
女子団体 優勝 東京富士大学Aチーム
第68回国民体育大会 卓球競技
(9/29)10/3 郷土の森総合体育館)
2位 西村卓二(教授・東京都成年女子監督)
出場 平野容子(経営学部3年生・富山県代表)
岡れいさ(経営学部3年生・北海道代表)
稲田侑加(経営学部3年生・埼玉県代表)
伊積さくら(経営学部3年生・東京都代表)

池上玲子(経営学部1年生・埼玉県代表)

鷲塚桃子(経営学部1年生・鹿児島県代表)
後藤奈津美(経営学部1年生・秋田県代表)
小鉢友理恵(短大部2年生・福岡県代表)

第54回東京都私立短期大学体育大会

(10/6 フジアリーナ)
卓球女子 女子シングルス
優勝 小鉢友理恵(短大部2年生)
2位 鈴木せり奈(短大部2年生)

防災訓練(10/10 中庭キャンパス)

第44回関東大学男女ソフトボール選手権大会
(10/26)28 館林市・高根運動場)
1回戦 東京富士大学 6・0 国際武道大学
2回戦 東京富士大学 22・0 千葉大学
準々決勝 東京富士大学 6・4 城西大学
準決勝 東京富士大学 5・2 東海大学
決勝 東京富士大学 4・2 日本体育大学
女子の部 優勝

11月

第45回東京都大学ソフトボール連盟秋季リーグ戦(1部)(10/6)11/3 東京富士大学日高総合グラウンド・早稲田大学所沢グラウンド)
東京富士大学 0・2 早稲田大学
東京富士大学 2・8 国士館大学
東京富士大学 3・6 日本体育大学
東京富士大学 7・0 日本女子体育大学
東京富士大学 4・5 東京女子体育大学
1勝4敗 5位

学生パフォーマンスLIVE2013 FINAL

前後祭(11/2)二上講堂)
学生パフォーマンスLIVE2013 FINAL
(11/3 二上講堂)
第48回東京富士祭(11/2)5)
テーマ「たかだのばばチカラ」
3日 模擬店・展示・研究発表・ブレイランド
軽音楽部ライブ
新日本書道書友会「関東展」
校友会公開講演会
南相馬市の物産展
空手道部キックボクシング同好会演武会
少林寺拳法部雄峯会演武会

4日

模擬店・展示・研究発表・ブレイランド
軽音楽部ライブ
南相馬市の物産展
落語&お笑いライブ
ポーンランドオープン 卓球競技

(11/6)10 ポーランド(スバウ)
日学連団長 西村卓二(教授)

出場 平野容子(経営学部3年生)

出場 池上玲子(経営学部1年生)

第80回全日本大学総合卓球選手権大会(個人)の部

(11/13)16 尼崎市・ベイコム総合体育館
女子ダブルス

2位 鷲塚桃子(経営学部1年生)

小鉢友理恵(短大部2年生) 組

3位 平野容子(経営学部3年生)

岡れいさ(経営学部3年生) 組

女子シングルス 13位 平野容子

第10回全日本学生選抜卓球選手権大会
(11/23)24 日野市市民の森ふれあいホール
女子シングルス

ベスト16 平野容子(経営学部3年生)

出場 暴 小雨(経営学部3年生)

出場 池上玲子(経営学部1年生)

12月

新宿区卓球団体戦(12/1 新宿スポーツセンター)

女子団体 優勝 東京富士大学A

3位 東京富士大学B

3位 東京富士大学C

ゼミ発表大会(12/4)

ボウリング大会(12/9)

学生大会(12/16)

東京富士祭反省会・学友会新旧役員交代式
(12/18 リーガロイヤルホテル)

1月

平成25年度全日本卓球選手権大会

(1/14)19 東京体育館

平野容子(経営学部3年生)

女子シングルス出場 女子ダブルスベスト8

混合ダブルスベスト8

岡れいさ(経営学部3年生)

女子シングルス出場 女子ダブルス出場

稲田侑加(経営学部3年生)

女子シングルス出場 女子ダブルス出場

混合ダブルス出場

伊積さくら(経営学部3年生)

女子シングルス出場

松本侑華(経営学部2年生)

混合ダブルス出場

池上玲子(経営学部1年生)

女子シングルス出場 女子ダブルス出場

後藤奈津美(経営学部1年生)

女子シングルス出場 女子ダブルス出場

鷲塚桃子(経営学部1年生)

女子シングルス出場 女子ダブルス出場

混合ダブルス出場

小鉢友理恵(短大部2年生)

女子シングルス出場 混合ダブルス ベスト16

鈴木せり奈(短大部2年生)

女子シングルス出場 女子ダブルス出場

混合ダブルス出場

課外活動奨励賞授与式(1/20)

秋学期末試験(1/22)28

2月

サフィール国際オープン2014(卓球競技)

(2/21)22 スウェーデン・オレボロ

小鉢友理恵(短大部2年生)

女子シングルス アンダー121 2位

女子シングルス クラス1 優勝

平成25年度神奈川県卓球選手権大会

(2/22)23 横浜国際プールスポーツフロア

女子団体 2位 東京富士大学A

女子シングルス 3位 池上玲子
(経営学部1年生)

3月

学位記授与式(3/21 二上講堂)

卒業記念パーティー

(3/21 京王プラザホテル)

平成25年度校友会事業計画

本年度実施する主な事業

自 平成25年	4月1日
至 平成26年	3月31日

1 講演会開催

日程 平成25年6月22日(土)13時30分~15時

場所 東京富士大学五号館532教室

講師 東京富士大学名誉教授 藤井 直氏

演題 高田勇道先生と内ヶ崎作三郎師の大学
学生像

2 総会開催

第64回定期総会開催

平成25年6月22日(土)15時15分~16時

場所 東京富士大学五号館532教室

議題 I 平成24年度事業報告承認の件

II 平成24年度収支決算承認の件

III 平成25年度事業計画(案)承認の件

IV 平成25年度収支予算(案)承認の件

V 総会の講演会について

VI 雄峯発行について

VII その他

平成25年度校友会行事録

4月3日

入学式(二上講堂)

4月26日

会計監査(校友会室)

1 平成24年度決算監査

5月8日

常任理事会(校友会室)(18時)

1 平成24年度校友会事業報告及び収支決算
について

2 平成25年度校友会事業計画(案)及び収支
予算(案)について

3 総会の講演会について

4 雄峯発行について

5 その他

5月16日

理事会・委員会(校友会室)(18時)

1 平成24年度校友会事業報告及び収支決算
承認の件

II 平成24年度収支決算承認の件

III 平成25年度事業計画(案)承認の件

IV 平成25年度収支予算(案)承認の件

V 総会の講演会について

VI 雄峯発行について

VII その他

II 平成24年度収支決算承認の件

会計監査 監査報告

III 平成25年度事業計画(案)承認の件

平成25年度収支予算(案)承認の件

3 懇親会

日時 平成25年6月22日(土)17時~19時

場所 新宿プリンスホテル「アリア」

会費 5000円

4 研究会開催

日程 平成25年11月3日(日)13時30分~15時30分

場所 東京富士大学五号館532教室

講師 東京大学大学院 白山映子氏

演題 20世紀初頭日英同盟下の日本の英国で
の評判と国際的地位についての感触

5 会報の作成と配布

会報「雄峯」52号(二〇〇〇部)を作成し新会員及び
会員並びに学校に配布

6 会員名簿の作成

全会員名簿の整理と変更等のメンテナンス

7 入会記念品の配布

新会員に記念品を配布

8 支部支会の助成及び育成

9 学生行事への助成と交流

10 その他

について

2 平成25年度校友会事業計画(案)及び収支
予算(案)について

3 総会の講演会について

4 雄峯発行について

5 その他

6月22日

第64回定期総会

講演会(13時30分~15時)

会場 東京富士大学五号館531教室

講師 東京富士大学名誉教授 藤井 直氏

演題 高田勇道先生と内ヶ崎作三郎師の大学
学生像

総会(15時15分~16時)

会場 東京富士大学五号館531教室

1 平成24年度事業報告承認の件

2 平成24年度収支決算承認の件

会計監査 監査報告

3 平成25年度事業計画(案)承認の件

4 平成25年度収支予算(案)承認の件

懇親会(17時~19時)

会場 新宿プリンスホテル「アリア」

6月28日

理事会・委員会(校友会室)(18時)

1 新年度事業について

2 研究会・講演会について

3 その他

8月9日

委員会(ルノール新宿区役所横店)

(18時~19時30分)

1 平成25年度校友会理事の選任について

9月7日

福島支部総会に出席

委員会(レイクサイド磐光(16時~16時30分))

1 東京富士祭における講演会の講師選任の件

10月9日

委員会(本館教室)

1 東京富士祭講演会実施について詳細審議

11月3日

研究会(東京富士大学五号館532教室)

(13時30分~15時30分)

講演 「20世紀初頭日英同盟下の日本の英国で
の評判と国際的地位についての感触」

講師 東京大学大学院 白山映子氏

東京富士大学 校友会会則

第1章 総則

- 第1条 (名称) 本会は、東京富士大学校友会と称する。
- 第2条 (本部の所在地) 本会は、本部を東京富士大学内に置く。
- 第3条 (目的) 本会は、会員相互の資質の向上と親睦を図り、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 (事業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
 1. 各種研究会及び親睦会の開催
 2. 会報の作成及び配布
 3. 会員名簿の作成及び配布
 4. その他必要な事項
- 第5条 (会員) 本会の会員は、次の者からなる。
 1. 普通会員、東京富士大学及びその前身校の各卒業生、並びにこれらにかつて在学し、入会を希望する者
 2. 特別会員 前項における現旧職員

第2章 役員

- 第6条 (役員) 一、本会に、次の役員を置く。
 1. 会長 1名
 2. 副会長 5名以内
 3. 常任理事 20名以内
 4. 理事 50名以内
 5. 委員 各同期生より10名以内
 6. 会計監事 3名以内
 7. 事務局長 1名
- 二、前項の規定にかかわらず、各支部及び支会より委員若干名を置くことができる。
- 第7条 (役員を選出) 役員は、次により選出する。
 1. 会長は、普通会員の中から総会において選出する。
 2. 委員は、各同期生、各支部及び支会の会員の互選による。
 3. 理事、会計監事は、委員会において委員の中から互選する。但し、会計監事は理事を兼ねることができない。
 4. 副会長、常任理事及び事務局長は、理事会の議を経て理事の中から会長が委嘱する。

第8条 (会長・副会長)

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する。

1. 常任理事は、会長及び副会長に協力し、会務を分担する。
2. 理事は、理事会を構成する。

第9条 (常任理事)

1. 委員は、委員会を構成し、その会務を管理する。
2. 委員は、会計監事を監査し、その結果を総会に報告する。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第10条 (委員)

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 理事、会計監事の選任
2. 会務運営に関する基本的事項

第11条 (会計監事)

1. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 理事、会計監事の選任
 2. 会務運営に関する基本的事項
2. 理事会は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

1. 会長は、会長及び理事をもって組織する。
2. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

第12条 (事務局長)

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 会長は、会長及び理事をもって組織する。
2. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

第13条 (役員任期)

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 会長は、会長及び理事をもって組織する。
2. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

第14条 (委員会)

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 会長は、会長及び理事をもって組織する。
2. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

第15条 (理事会)

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 会長は、会長及び理事をもって組織する。
2. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

第16条 (総会)

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 会長は、会長及び理事をもって組織する。
2. 理事は、次に掲げる事項を決定する。
 1. 総会及び委員会に提出すべき議案
 2. 会務の執行に関する事項
 3. 総会の決議事項であつても、特別に緊急を要するために止むを得ない事項。但し、第3項の決議事項は、次の総会で承認を得なければならぬ。

第4章 会計

- 第26条 (入会金) 普通会員は、入会金五〇〇〇円を納入する。
- 第27条 (会費) 普通会員は、終身会費として五〇〇〇円を会費として納入する。
- 第28条 (臨時会費) 臨時に必要とする会費は、その都度、理事会の議を経て徴収することができる。
- 第29条 (会費等の不返還) 入会金・会費及び寄付金は、理由の如何に拘らず還付しない。
- 第30条 (経費) 本会の経費は、入会金・会費・寄付金、及びその他の収入をもってこれに充てる。
- 第31条 (財産の管理) 本会の財産は、会長が管理する。
- 第32条 (予算の執行) 本会の予算の執行については、別に財務処理規定を定める。
- 第33条 (会計年度) 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第5章 雑則

- 第34条 (届出の義務) 1. 会員は、その住所・氏名・就職場所等の変更があつた場合は、速やかに本部事務局まで届け出なければならぬ。
2. 前項の届出を怠つた場合は、本会よりの通知文書等の送達を省略しても、本会の責任とならない。
- 第35条 (細則) 本会の規定により手続上の細則については、理事会の議を経て別に定めることができる。付則 この会則は、昭和60年6月30日より実施する。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第6章 会務分掌等に関する規定

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第7章 附則

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第8章 附則

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第9章 附則

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第10章 附則

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第11章 附則

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

第12章 附則

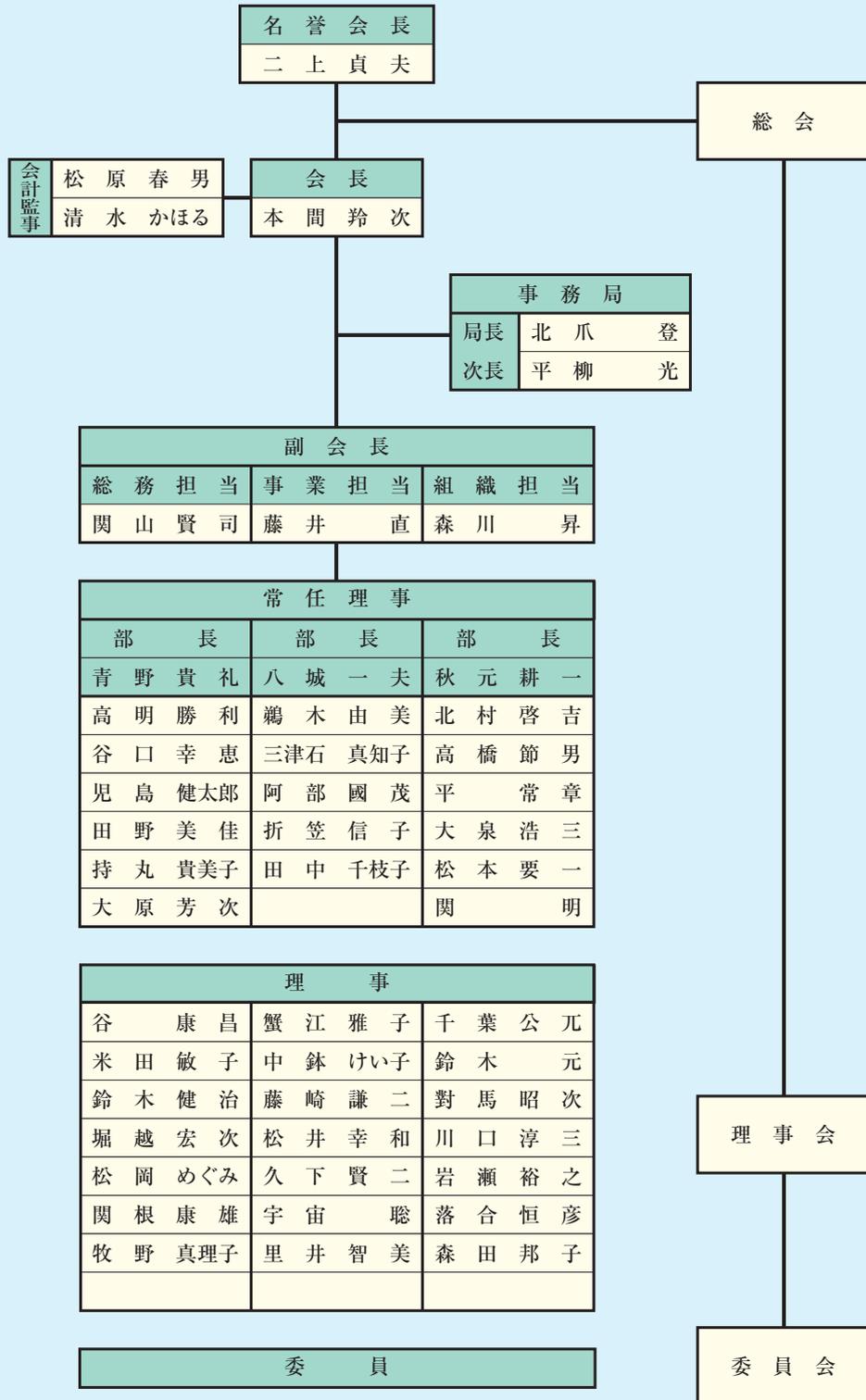
1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

1. 役員は、就任後第2回目の定期総会終了のときまでとする。但し、重任を妨げない。
2. 役員が辞任又は任期満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその会務を行うものとする。

平成25年度校友会事務組織・分担表

顧問	
樋口光善	
佐伯一郎	
勝浦吉雄	
倉橋清文	
鈴木允子	
石井末之進	
関 實	
井上和子	
佐藤雄一郎	
若狭茂雄	

相談役	
三井英一	
江種康人	



平成26年3月21日現在

編 集 後 記

●編集委員に初めて関わり戸惑いました。何も知らず編集委員会に出席し、皆様大変苦労して『雄峯』を制作していることがわかりました▼今まで少林寺拳法部では、卒業してから学生を指導してきましたが、卒業して50年まだまだ学生の指導はできません。現在、大学の監督をしています▼毎年オリエンテーションでOBが学生の勧誘を行っています、入部者がいままん。今もOBが毎週母校の武道場で練習を行なっています。今年もまた頑張ります▼少林寺拳法で鍛えた精神を、これから『雄峯』編集及び校友会の発展のため生かしてまいります。 秋元 耕一

●今号も、中国からの留学生による寄稿が目にとまった。その行間からは、率直さと純粹さ、そしてやさしさまでも感じとれるものが多かった▼それなりのご家庭のお子達とは思われるが、異国に来て短期間に言葉から覚えなければならぬはずなのに、それをのり越えて、しっかりと成果を残している▼巣立った後の社会的貢献をも考えるとき、何かほのぼのとした気持ちで編集を終えた。 三津石 真知子

●編集会議の帰りの電車の中、ふと、網棚の上の広告文の二文字が目にとまった。そこには「耄耋」と書かれていた。なんと読むのだろうかと思ひになり、メモしてネットで調べた。「ほうてつ」と読むようだ。意味は、おおまかには老人を指す言葉だが、中国では80歳から90歳を「耄耋の年」という▼我が国も超長寿社会になっていき「耄耋の年」の人が多くなってくると思われる。心身ともに自立し、健康的に過

ごされることを願う▼編集会議も最終段階に入り、休日返上で取り組んでいる。原稿をくださった校友の皆様ありがとうございます。ごさいました。編集委員の皆様お疲れ様でした。 森川 昇

●今号より、『雄峯』編集委員会に参加させていただくことになりました▼これまでの校友会活動では、各年度の行事を横断的に手伝わさせていただきましたが、『雄峯』編集委員会の仕事というのは、過去から未来へと続く、時間の縦軸を行き来する仕事でした▼私が生まれる前に本学を卒業された方がその当時の思い出を、また私が社会に出たころに生まれた方が将来に向けた思いを、それぞれに綴る場所。そしてこれから本学に入学する人と、今後卒業する人たちに、先達として残せるもののひとつ。それがこの『雄峯』なのでした▼本学の過去と未来を考える契機となる『雄峯』の編集に参加できたことを、うれしく思います。 青野 貴礼

●私は、昨年の夏から毎朝5時45分に起床するように心がけています▼夏の朝は冷気が心地よく清涼しい気持ちでしたが、秋が過ぎ冬となり、そして年が代わり、編集委員会が始まった1月20日頃は寒さも厳しく、外も真つ暗でした。それから編集作業が進行し、最終段階をむかえた3月中旬になると、朝の寒さも少し緩み外も明るくなり春の気配を肌で感じられるようになりました▼今回は『雄峯』の編集作業の経過とともに味わう充実感と、季節の移ろいを体感させていただいた貴重な時間となりました。 平柳 光

●2013年、本間玲次会長のもと、新執行部が誕生しました。それは華やかさと活力に溢れた船出でした▼前会長の若狭茂雄顧問には、『雄峯』の編集委員長時代を通して、包容力豊かな指導のもとで多くを学びました。編集作業の終了を喜び合い、努力された「50号記念誌」が生まれたことは忘れられません▼この間の前後数年を振り返っています。いくつもの星を失い、人の切なさや自然の動揺は常に隣り合わせ、景色が薄墨色に覆われたままのようでした▼それでも母校のご支援のもと『雄峯』は歩んでいます。若狭顧問、今後とも率直なご意見をお願いいたします▼2014年、時は動き「五輪」の輝きと高揚に包まれるなか、今年も若者たちが巣立ちます。みんなアスリートです。その「夢のカケラ」を拾い、願いを込めようと思っっています▼健気な競技者たちには後押しされ、不思議さと誇らしさを抱きながら『雄峯』の原稿に向かいます。その言葉を追いつながら……。すべての「物語」には「続き」があることを知りました。 鶴木 由美

●原稿をお寄せいただいた方々、有難うございました。従前(昨年まで)からも想っていたことですが、今年には更に強く感じられます。本誌を読んでいただける方々が一人でも多くなることを▼校友会での役割が変わってもご指名により編集委員に加えていただいて光栄です。その初稿の編集にほとんど協力できず心苦しく感じています▼どうか、一人でも多くの校友が校友会に関わり、本誌を読んでいただけますことを祈っております。 江種 康人

●「閑居して」と謂う。小人の身としてみれば、「閑居」に陥ることなく、無事に過ごすことができるのは、至難の業としか思えません▼「親睦」も「資質の向上」も、「母校の発展」も、人と組織の「不善」回避を願った先人の倫理による慮りであると考えると、あらためて畏敬の念が湧いてきます▼二上名誉会長、早坂名誉教授と新潟市の武石氏の玉稿も大きなインパクトをもたらしました▼本号は前号に引き続いて、ささやかではありますが創立70周年記念の気持ちを込めてつくることができました。新たなメンバーが加わって、新鮮な編集委員会ゼミは十分に2単位分の内容がありました▼意欲、熱意の求心力が毎回集積しえたのは、北爪事務局長の参加、八城事業部長の鮮やかな実務処理力、青野氏の清新鋭利な発言等によるところが大きかったと思います▼この編集委員各位の努力が会員諸氏の力の發揮に結びつけばと考えています。 藤井 直

●年度末が来ると顔を合わせる仲間がいる。元気な顔を見るのが楽しみで、忙しくても会いにくる。また、個性豊かな方々と作業をすると、様々な気付きを与えられる。乏しい知識でひと仕事終えると、少し成長したような充実感も味わえる。だから一所懸命『雄峯』の制作に励む▼その頃、ソチでは4年にいちどの冬季五輪が開催され、メダル争いの真つ最中だった。選手達のメダルに対するこだわりとともに、納得のいく競技・演技に全力を尽くす、清しい姿を見ることができた▼『雄峯』も編集委員会が全力を尽くしました。ご愛読お願いいたします。 八城 一夫



雄峯 第52号

平成26年3月21日 印刷

平成26年3月21日 発行

平成27年5月21日 改訂版発行

発行人 東京富士大学校友会
本間 羚次

編集人 「雄峯」編集委員会

事務局 東京富士大学
学生課内
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場3-8-1
TEL. 03-3362-2252

印刷所 株式会社 暁印刷

「雄峯 第52号」 編集委員会

委員長	藤井	直
委員	青野 貴礼	秋元 耕一
	鷗木 由美	江種 康人
	北爪 登	田中千枝子
	平柳 光	三津石真知子
	森川 昇	八城 一夫
		(五十音順)

雄峯



TOKYO FUJI UNIVERSITY
東京富士大学校友会